ら一所に集め心身整理の簡單な運動を行はしむるがよい。

ハ、放課後の運動。

放課後一週、一回乃至二回位、三十分か一時間の運動を行はしむるのは有效だ。朝や晝の運動は整理的のものだが放課後運動は積極的の意味に於て力を注ぐべき性質のものだ。其方法は學校の性質、生徒の年齡、土地の狀況に應ずると。其材料は全般的にて選手養成的では駄目だ。

ニ、武術。

身體、精神を鍛練し、國民性を涵養し、大和魂を練るによい。

ホ、水泳。

(イ)、全身を均齊に發育せしめる。

(ロ)、諸器官の機能を旺盛にする。

我國の如き四面海なる國の恩惠に浴し健康を向上すべきだ。實用的にも之に依つて利する點多し。危險防止上の注意肝要なり。

ヘ、遠足及び登山。

(イ)、簡單に行はれるよい運動だ。

(ロ)、知德の養成に役立つ。

(ハ)、主目的が健康增進にあるのだ、餘り精神の課業を强ふるな。然し觀察、實驗の好機を逸するな。

(ニ)、質實剛健の氣象を養へ。服裝を華美にし、飲食物に留意するは禁物だ。

(ホ)、交通機關、險路等に對し注意を周到にすべきだ。

ト、運動會。

(イ)、學校體育の公開奬勵だ。

(ロ)、訓育の一方便だ。機敏、秩序、自治、公明正大等の德性を涵養すべし。

(ハ)、家庭、社會體育の奬勵としての效果を擧げよ。

(ニ)、普通の授業を怠るべからず。
(ホ)、プログラム通り實行し豫定を變更し時間を延すな。
(ヘ)、賞品を廢すべし。
チ、競技會
(イ)、品性陶冶に好結果を齎すやう指導すべし。
(ロ)、勉學を怠るな。
(ハ)、選手のみの競技に終らぬやう注意すること。
(3)、學校生活に於ける課外運動選擇の條件。
イ、多數の者が同時に出來るもの。
ロ、興味あるもの。
ハ、簡單容易に實行されるもの。
ニ、體育的價値あるもの。
ホ、各個人の運動趣味を滿足せしむる爲め成るべく多くの種類に亘つて施設すること等。

（以上五問　三時間）

(四)、兵式部分

□

1、戰鬪間兵卒の心得べき事項を述べよ。

(1)、戰鬪は行軍及び劇動を爲し且つ缺乏に堪へたる後始るを常とし且數晝夜に亘る事多し。故に兵卒は勇猛沈着にして自信と耐忍とに富み、歩兵戰鬪の慘烈なる感情に克ち以て戰鬪の要求を充足し得ざるべからず。
(2)、兵卒は敵の火力熾にして、死傷極めて多き時と雖自己の責任を自覺し、從容自若

として事に當り決して逡巡すべからず、凡て疑惧退走は敗滅に陷り猛烈果敢なる前進は常に勝利を得べきものなることを銘肝すべし。

(3)、敵陣地内の戰鬪にありては紛戰を惹起す、此時に方りては一兵卒と雖勇敢にして機宜に適する行動を爲すときは能く中隊戰勝の基を開き得るものなり、故に兵卒は指揮の及ばざる場合に於ても時々刻々變化する戰況に應じ各所信を決行し、特に己を捨てて他をして捷しむるの覺悟あるを必要とす。

(4)、兵卒は防禦に在りては專心其位置を固守し決して動搖すべからず、敵兵愈々近接するに從ひ我が火器の殺傷力益々多き事を確信し泰然逆襲の時機を待つべし。若彈藥を射盡し又は敵の重圍に陷りたる時は自己の銃劍に信賴し最後の勝利を求むることに努むべし。

(5)、兵卒は戰線に於て負傷するも百方手段を盡して戰鬪を繼續すべし、而して遂に戰鬪に堪へざるに至れば指揮官の許可を受けたる後、彈藥を戰友に交付して徐々に戰線を退くものとす。

(6)、數個の中隊相混淆し新に區分せられざる時は兵卒は最寄分隊長の指揮を受けて奮鬪すると所屬分隊長に於けるが如くなるべし。

(7)、瓦斯攻擊を受くるか或は之が警報を聞くか若は之を豫察したる時直ちに比隣相傳へ別命を待たず各自迅速確實に覆面を裝すべし。

(8)、兵卒は許可なく其の所屬部隊を離るることを得ず若し任務を帶びず或は尙戰鬪に堪え得べき輕傷にして恣に戰線を去り又は戰鬪中命令を受けずして負傷者を看護若は運搬し其他任務を受けて一時戰線を離るる場合に於ても其任務遂行後速に復歸せざるが如きは卑怯の行爲にして軍人の本分を傷くるものとす。

兵卒若し所屬部隊の所在を失ひたる時は直に近傍に戰鬪する部隊に合し其將校に屆出し其の命に從ふべし、而して戰鬪終れば直に其所屬隊に復歸するを要す。

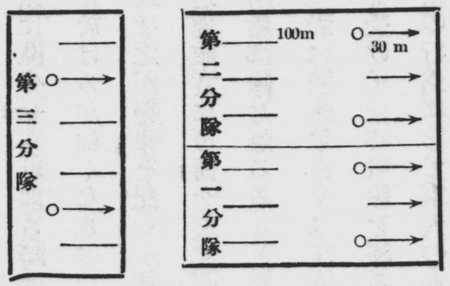
□

2、中隊分散の狀態を圖示說明せよ。

小隊分散するには分隊を一線或は前後百米を距つる二線に配置するを通常とす。

而して分隊は通常一列側面縱隊を用ひ各分隊の間隔は別命なければ約三十米とす。

第一線の小隊



凡例

○→ 輕機分隊

→ 小銃分隊

□

3、渡舟による渡河の注意事項を述べよ。

(1)、教官は舟の搭載量に注意し生徒を豫め區分し渡舟の順序を定むべし。

(2)、乘船せば何人と雖も皆坐らしむべし。

(3)、航行中は何人も其位置を離れ或は立ちまた姿勢を崩すべからず。

(4)、漕手の動作を妨害すべからず。

(5)、上陸に際しては靜肅に行ひ且つ速に上陸點を離れ以て混雜を豫防すべし。

□

4、露營地撰定の要旨を記せ。

(1)、速に集合若は出發し得る土地たること。

(2)、充分に休養の出來得る土地たること。

休養上必要なる條件。

イ、良水を得ること容易且つ十分なること。

ロ、土地の乾燥なる風雨の障蔽を得るに足ること。

ハ、低地にある草地及濕地は健康に害あるを以て避くること。

二、乾燥なる土地或は大樹の林たること。

(3)、特に敵の空中偵察を困難ならしむる如く選定すること。

□

5、小銃に照尺の必要なる理由を説明せよ

彈丸は重力及空氣抗力の二作用を受けて其彈道は曲線狀を描く。然してその彎曲の度は銃口を遠ざかるに從ひ益々大となる彈丸を目標に命中せしめんには目標の遠近の度に應じ銃身軸の延線卽ち射線を目標の上方に向はしめざるべからず。其目標遠近の度に應じて銃身軸を傾斜せしむ。卽ち目標遠ければ遊標を上方に上げて銃身軸の傾度を大ならしめ近ければ傾度を少くして彈丸を目標に命中せしむることを得る。

（以上五問　三時間）

三、大正十四年受驗答案

東京府立第三中學校教諭　川崎作次郎

(一)、生理解剖衞生部分

□

1、肺活量を説明し、其の運動による增加の理を述べよ。

(1)、肺活量。

吾人の安靜呼吸氣量は平均五百立方糎である、然るに補助呼吸筋をも使用して最も强く、深呼吸をするときには、其の氣量本邦人成人の男子に於て二千八百立方糎乃至三千立方糎となる之れを肺活量といふのである。

(2)、肺活量の運動による增加の理。

イ、胸廓の前後、左右徑を增加す、(胸廓容積增加)

(イ)、中等度の運動は、胸廓の擴張に最も作用する、安靜時呼吸筋及び補助呼吸筋の機能を向上して、胸廓の前後、左右徑を增加する。

(ロ)、中等度の運動により、肋骨　胸椎間の關節を圓滑ならしめ、其の運動領域を增大す。

(ハ)、中等度の運動は常に適當なる呼吸促進を來たす、隨つて肋骨擧上せられ肋軟骨の彈性を增加す。

(ニ)、運動適當なるによつて、横隔膜の機能向上して胸廓の容積を增す。

ロ、無意識的深呼吸が胸廓を擴張す。

運動による物質代謝に伴ふ身體の適應作用は、血液循環の旺盛を來たし、呼吸の促進となり、毎回の呼吸氣量を增加し、又呼吸數を增加するものである。故に運動は無意識的に深呼吸を行はしめて、胃の機能を向上し、胸廓は次第に擴張せられ肺活量を增加す。

□

2、筋の機能三種を說明し　其の各を發達せしむるに適當なる運動種目名を擧げよ。

(1)、筋の機能。

イ、絕對力。

筋の絕對力とは最强の努力による筋の張力であつて筋横斷面一平方糎につき一〇瓩と算せらる、之れが、所謂一時的筋の最大力である。卽ち一時的筋力は筋の太さに正比例して增加する。

ロ、持久力。

筋持久力とは筋の總作業量を指すのである。筋の持久力を增加するためには、手頃の重量を筋に負擔さして出來得るだけ頻回作用せしむるにある。

ハ、收縮力。

筋纖維の收縮である。筋纖維は凡そ其の長さの三分の一まで短縮し得るものであるから、筋の太さには關係せぬものであるから輕技卽ち筋力を特に要求せしめて筋の廣汎な伸縮を要する運動により收縮度を增加することが出來る。

(2)、運動種目。

イ、力運動。

(イ)、一般的力運動。

(ロ)、局所的力運動。

ロ、巧緻運動。

ハ、永續運動。

ニ、急速運動。

ホ、注意力練習。

ヘ、機敏練習。

ト、輕技。

チ、重技。

□

3、中等學校生徒の身體發育に就て知れる所を記せ。

中等學校生徒の年齡は其の學校の種類に依り多少の差はあるけれども、大體に於て十二、三才乃至二十才迄の中に包容される。左に此の期に於ける生徒の發育狀態を、身體的と精神的方面より述べやう。

(1)。身體的方面。

イ、解剖上及び生理上。

(イ)、男。

此の期の半頃より骨骼、筋肉、內臟の諸臟器は猛烈なる發育を來たし、骨骼は其の太さを增し長さを增して質益々堅牢となる。筋肉も隨つて太さ、長さ

を增加し、大なる努力に堪え、諸臟器は機能益々向上す。卽ち、身長、體重胸圍等は甚しく增加し、體重の增加率は一生涯を通して最大となる肺臟、心臟の發育も最も强勢となる。

春機發動期は此の期の半頃より初め全身の發育完成を期する時期である。

(ロ)、女。

此の期の初め頃に於て四五年間は男子を凌駕する程の發育を行ひ、男子の全期に亘つて完了する所を女子は初頃に於て早や完成の域に達する程の發育をする、卽ち春機發動期は此の期の初め頃終る。

ロ、神經系統。

男女共に神經系は其の機能顯著に向上し、調節作用及び刺戟に對する反應力は益々鋭敏となり凡ゆるの精神要素の訓練に堪え得るに至る。

(2)、精神的方面。

知、情、意の三方面は益々其の發達を向上し、理解力、推理力、應用、競爭心、名譽心の諸道德方面に於る、精神要素は悉く進步する。殊に運動の理解力は最旺盛を來たす時期である。

□

4、**體質に就き知れる所を記せ。**

(1)、體質の意義。

體質とは兩親の胚細胞の性狀に起因してゐる人間の特異性で、その人間の一生を通して變化しない。先天性の已に細胞卵と精蟲との結合の瞬間に定まる不變のあるものを指していふのである。

左に大別して正常體質と、異狀體質との二方面に依り說明しやう。

(2)、正常體質。

個人の體質は顏の異なる如く皆違ふものであるが。重要なる共同特徵を集めて左

の四型に分ける。

イ、呼吸型。

胸の發育特によい。胸は殊に長く、腹部は比較的小さく、顏は少しく長く、鼻は大きく長く、少しく曲り又廣い。肺活量は甚だ大である。山岳の住民にこの型が多く、嗅覺敏感である。而し肺結核に罹り易い。

ロ、消化型。

顏面の下三分の一がよく發達して居る、下顎が角ばつて顏面の形、恰も、ピラミットの尖端を上にした如き觀がある。額の生え際は弓狀のものが多い。頸は短かく胸は廣く短かく、腹は甚だ發達し多く前に出て居る。一般に肥えてゐる。

ハ、筋肉型。

多くは頭が廣く、顏面四角型を呈して居る。頭髮の生え際は額は直線狀で、左右に直角狀を呈し耳の前に曲つて居る。眉は長く直く毛髮の發育がよい。軀幹發育均齊良好。肩廣く少しく高い。四肢の筋肉隆々と發育す。此の型は競技家に多く、而しレウマチス性の病氣呼吸器カタル、心臟障害に罹るものが多い。

ニ、腦型。

身體はやさしく比較的細い、頭は大きい、殊に額部がよく發達し、頭髮生際は中央部が突出し左右が兩側が入り込んで居る。眉は少しく三ヶ月形で、眼は活々として大きく、耳も同樣、手足短かく殊に足は小さい。而し神經衰弱ヒステリー、肺結核に罹り易い。

(3)、異狀體質。

イ、胸線淋巴性體質。

胸線が異狀に大きく。全身の淋巴組織、淋巴線、扁桃腺等が一般に增殖して居る此の體質のものは外的作用に對する反應强く、しばしば心臟麻痺のため斃れ

る、皮膚蒼白弛緩し、皮下脂肪多く、體形小兒的で發育不充分である、大動脈著しく狹く、すべて血管も同樣である。兒童期に痙攣質のものが多く、また佝僂病の症狀を見ることが多い。

ロ、無力性體質。

全身長く大にして細い、上眼瞼下垂し鼻は細い、頸は細くして著しく長い。胸は長く狹く扁平で第二肋骨突出し、第十肋骨遊離、鎖骨前方へ突出し、呼吸は表面的で屢々緩む、流肩にして翼狀を呈す。上腹は鋭角で小扁平胃腸下垂し、臍下前出膨大しヘルニヤ多い。四肢長筋細弱弛緩し扁平足、手足細小である。腰部前彎生殖器異常を呈し子宮後屈したる者が多い。皮膚は薄蒼白、鬚髯多きも身體は女の如く產毛が多い。精神異狀を呈するもの多く。體溫低く慢性レウマチス、糖尿病、血管變質、動脈硬化症、狹心症等に罹り易い。

ハ、神經精神病性體質。

全神經機關が、刺戟せられやすく、また刺戟に應じて反應が强よすぎ、その結果いろいろな兆候があらはれる、或は神經衰弱を起し、或は心悸亢進し、或は顏色變り易く、不安性を帶び、或は消化不良を起す、知能の異常に優れた者や美術の天才にこの體質が見られる。

ニ、痛風質。

この體質には肥滿型、神經質型、淋巴性型の三つを區別してゐる、この體質の者は皮膚薄く、眼光澤を帶び、瞳孔廣く、多くは痩せ、精神不安で、運動は衝動的で心機轉換しやすく、感情的で、興奮し易く、孤獨を悅び言語擧動偏頗のもの多く遊戯を好まぬ。以上は神經質型で、皮膚蒼白、粘土の如く　筋肉弛み扁桃線其他の淋巴裝置增殖し不活潑遲鈍で注意散漫し、外貌痴呆狀を呈してゐる。以上は淋巴性型の者である。

（以上四問　二時間）

(二)、體操の部分

□

1、身體各機能の完全なる發達の意義を說明せよ。

身體各機能の完全なる發達とは、人間として完全なる、發達を遂げるとであつて、而して人間として完全なる發達は、身體的にも精神的にも健全であらねばならぬ。卽ち人間の根本的生活現象の完全なる發達である。

根本的生活現象は次の如き方面に分類することが出來る。

(1)、解剖的。

動作系統の發達、卽ち筋肉、骨骼の圓滿なる發育にして運動的自由である。

(2)、生理的。

生活系統の發達、卽ち呼吸、消化、循環、排泄の機能の發達にして生物的の確存である。

(3)、心理的。

心理系統の發達にして神經系統の確實、人間的の優秀である。

要するに身體各機能の完全なる發達は人間としての圓滿なる發達である。

□

2、體操科中に於ける體操の長所と缺陷とを擧げよ。

體操には種々あるけれども、其の根本は瑞典式體操と獨逸式體操に基礎を發するものである。而して現今我國にて行ひつつある體操は此の二者の混合より成るものである。

左に此の體操の長所と缺陷とを擧くべし。

(1)、長所。

イ、身體に好影響を與へる目的を以て作られたること。

身體精神を向上發達せしむる爲めの主觀的運動で其他に何等客觀的特殊の目的をもたない生活の爲め行ふ農業、漁業其他の職業運動とは目的を異にする。故に其の方法は自由であり、材料も他種であり、科學的系統的に組織されてゐる。

ロ、體操は其の效果に於て普遍である。

體操は身體に圓滿なる調和的發達を與へる目的にて選定し、組織されたるものである。而して其效果に就ても亦普遍である。卽ち課業を通して同じ運動の連續して行はれることがない。一運動の適當なる數に行はれるときには、他の運動行はれ、更に次の運動に移る、斯の如くして身體各筋群は順々修練せられる。其の結果、全身の調和的發達を遂ぐるに至る。日常生活の屈位姿勢に對し體操は伸的である。故に體操は其の形式に於て幾分偏するも、其の效果に於て普遍的であると言ふことが出來る。

ハ、矯正的價値の大なること。

身體の成長を誘導し、日々の仕事や、日常生活の間に生じ易い、姿勢の缺點を矯正して練成上に特殊の効用を有する。日常生活中に起る不良の姿勢、學校の課業、其の他の運動による偏頗な發育より不知不識の間に不正に導かるるものである。體操は此の不正の發育矯正に關し極めて有效に作用するものである。殊に正常直立、伸臂、頭後屈、上體の後屈、等の運動は、此の目的に向つて卓越せる效果を有する。

ニ、一般的調齊力を訓練する。

凡ての運動は或る程度の調齊力を向上さするものである。體操は其の種類に於て極めて多い形式を有する故に、筋神經支配の能力が修練され、其の結果種々の狀況の下に適當に協同して働く如く訓練さるる。

ホ、一時に多量に運動を課して、過勞に陷らすることなし。

輕い運動に於ても、永續さるる場合には運動の總量は割合に少ないに係はらず

速に疲勞せしむるものである。然るに體操は課業を通じて同一運動の繰り返へさるることは全くなく、次々に變化し各筋群は短時間なれども强く働き、其の總量に於て大なる運動量に至るも過勞することがない。

ヘ、身體に柔軟性を與へる。

職業的勞働、その他の運動に於ては筋の發揮し得る力、關節の全可動領域を使用することが少ない、故に活動範圍縮少され漸次圓滑性を缺ぐに至る。筋も靱帶も、身體の諸機關と同樣、小範圍の收縮に慣るるときは遂に不能働性萎縮を起し、筋力衰ふるに至る。然るに體操の特色は諸關節の全領域を使用することの多さが故に身體に柔軟性を與へる。

(2)、短所。

イ、興味に乏しい。

體操は極めて合理的であつて、身體の各部を均齊に發達せしめるには最も適當な運動であるけれども、動作が均一的であり、あまり規則的な關係上興味を惹起する點少ない。之れ體操の最も欠點とする所である。體操が身體練習として極めてロジカルなものであるに拘はらず、兒童、學生の間にあまりに歡迎されず、また廣く社會に行はれない所以である。

ロ、自發的活動、自由選擇を欠ぐ。

體操は或る一定した指揮の許に行はれる。多く場合動作が均一的でまたあまりに規律的である。隨つて實習者は常に受身にして自發的の活動をする場合が少ない。又運動種目の選擇等に於ても自由意志の適用を欠ぐ點が少なくない。故に體操によつて一般的調齊力は訓練することが出來るが、機敏性を養ふことは少ない。

□

3、懸垂運動の目的及び要領を述べよ。

懸垂運動とは上肢を以て器械に懸る所の全身的の運動である。左に是が目的を述べ更に此の運動を半懸垂と全懸垂との二大別となし要領を述べん。

(1)目的、

イ、解剖上。

胸、腹、背等軀幹諸筋を強健にして特に軀幹上部の發達を圖り、上肢の強力的發達を促がす。

ロ、生理上、

内臓諸機能を促進し、殊に胸廓を擴張して、呼吸、循環の作用を旺盛にす。

ハ、精神上。

氣力を養成し、意志の鍛練を圖る。

(2)、要領。

イ、半懸垂。

(イ)、支持點が上肢、下肢の二點である故に、支點と體全體との關係を考慮し、懸垂の統一的努力を損じないこと。

(ロ)、軀幹牽擧に努め、脊柱を正しく、胸廓の擴張を圖ること。

(ハ)、腰椎の正常位たること。

ロ、全懸垂。

◎臂のみにて體を支へる懸垂。

(イ)、上肢を以て懸垂する前に、下肢の彈性を利用して、踏切を行へ、而して其の踏切は、運動に依り强弱適當なるべきこと。

(ロ)、懸垂中は特に軀幹の牽擧に努力し、下半身の無用の努力を避くること。

(ハ)、正常の體勢を保持し、吊垂位にならぬこと。

(ニ)、着陸は隋勢の方向と衝擊力とに相當する緩衝作用を用ふる樣にすること。

◎臂の力に依り體重を上方に擧上する懸垂。

(イ)、上肢帶及び、胸廓周圍の諸筋の努力を大ならしむること。
(ロ)、運動の主眼點たる胸廓を吊垂的に牽引されぬことに注意して行ふ。
(ハ)、臂屈伸の場合、胸背部の努力を考慮して行ふこと。
ハ、呼吸の自由。
出來得る限り努責を避くること。
ニ、意志の鍛練。
意氣を昂進せしめ、總て發揚的氣分を以て行ふこと。

□

4、足支持腰掛體後倒運動の要領及び注意事項を述べよ。

足支持腰掛體の後倒運動は兩足を支持したる腰掛の姿勢より體を後倒する所の腹の運動である。

(1)、要領。

イ、腰掛の姿勢。
(イ)、足は蹠趾關節にて上を確かに支持するやう。
(ロ)、腰は成るべく淺く掛け、膝を直に伸ばす。
(ハ)、上體は正常姿勢に保持す。
ロ、倒す場合。
(イ)、後倒は脊柱卽ち、頸椎、腰椎、胸椎の正常保持に努力しつつ股關節を伸ばす。
(ロ)、後倒の度は下肢、腰、上體とが一直線卽ち正常姿勢に至りて止む。
ハ、起す場合。
他の部の姿勢を變ずることなく、股關節部のみを動かして上體を、元位置に起す。

(2)、注意事項

イ、腰掛の姿勢を正しく取ること。

(イ)、兩足は之れを揃へ、踵にて下を、蹠趾關節部で上を確實に支持すること。

(ロ)、脚を伸ばし、腰を成るべく淺く掛け、豫め後倒に便なる樣にすること。

(ハ)、腰を掛ける際特に背(腰)椎部を伸ばし、軀幹を正しく保つこと。

ロ、倒す場合。

(イ)、脊柱の正常保持に努力すること。從つて前頸筋、胸筋、腹筋等を伸展又は收縮せしめぬやう。尙、胸部壓縮、弛緩と直腹筋の牽引的弊害とは特に注意すること。

(ロ)、肩を正しく下げ頸を伸ばし、頭を正しく保つこと。

(ハ)、倒す時に膝の伸展に特に注意を要す。

ハ、起す場合。

(イ)、胸部壓縮の狀態となり、頭の前方に出でざること。

(ロ)、起し終つた時の脊柱正常保持に注意すること、

ニ、進度に注意すること。

後倒の度、速度及び後倒姿勢保持の長短等は、各個人の進度に應じて極めて細密に注意を拂ひ、適宜之を定むること。

ホ、呼吸を自由にすること。

呼吸は常に自由にすることを本則とすれども、吸氣を以て倒し、呼氣を以て起すを普通とす。進んでは呼氣吸氣何れにても行ひ、又倒したまま呼吸を自由にすることを練習すること。

(以上四問　二時間)

(三)、競技部分

□

1、競技運動の目的を述べ、其の長所及短所を記せ。

競技とは各人の優越を競ふ正當なる奮鬪である。卽ち熟練、速力、持久力等を競ふを言ふものである。而して個體及び種族を維持せんが爲めに生じたる、一種の本能運動である。

1)、目的。

目的なるものは、各人の理想に依り自ら多少の相異はあるけれども今日一般に認められてゐる目的を擧ぐることとする。

イ、活動本能を滿足せしめて愉快を求むること。

ロ、身體を强健にして生存競爭に克つの力を養ふこと。

ハ、紳士として必要な諸德性の實際的修練をなすこと。

ニ、社交上の利益を享けること。

(2)、長所。

イ、教育的價値の大なること。

遊技は吾人の一般的健康を進め、身體諸能力を高むると共に吾人の知德を向上し、特に高き品性を建設する上に、極めて有效なる作用をなすものである。正しく行はるる競技は種々の精神的效果を有し、此れ等の者は身體的效果に勝るとも劣らぬものである。卽ち競技は從順、活潑、誠實、果斷、自信、注意、忍耐、犧牲、體の支配の性質と共に、快活な精神を發達さする上に效果が多い。又競技の間に要求せられる不斷の自己支配、自制、共同及び他と調和して働くといふことは自ら、非自己的精神を養ひ、實社會に出でて必要な社會的精神を向上せしむるものである。

ロ、自發的活動であること。

吾人の身心を向上せしめ且つ之れを訓練せんが爲めに自然の方法である。實際競技は、兒童や、青年にとつては極めて自然的なものであつて、吾人に取つて

は飲食物や睡眠等と等しいものである。故に競技は自發的のものであつて他の仕事の如く運動に拘束なく、全く、彼等の自由活動、自由撰擇によつて行はれる。故に吾人はこれに依り不知不識の内に獨創機敏の性質を養ふことが出來る。

ハ、社會的(社交的)にして國際的である。

普通に試合或は競爭等の形式で行はれる故に互に技を戰はすことに依て個人同志相識り、團體と團體と相識り、更に進んでは國際間の情誼を增すこととなる。卽ち競技は體操に比し一層社會的(社交的)であると言ふことが出來る。

ニ、多趣味なること。

吾人の健康を進めるには、卓越せる効果のあるものであつて、其運動に興味の伴はないときは、それを實行する人が稀である。實際競技を行ふ直接の目的は健康の增進や、知德の向上に重きを置くには非らず、全く愉快を得んが爲めに行ふものが多い、而して其の結果、彼等の健康を進め、その他の利益を得るものである。

(3)、短所。

イ、偏頗なる發育に導くこと。

一般的健康を增進し、確乎たる品性を建設する上には、特異の效果を有するけれども、多くの場合偏頗なる發育を來たし、不正の姿勢に導くものである。例へば走及び主として走より成立する運動のみを行ふ時は上體に比して下腿のみ多く發達し、投擲にのみ熱中すれば上體の不均等の發達を來たす。猶片臂のみを使用するときは、使はざる臂に比して偏頗なる發育を來たす等の如きものである。

ロ、過勞を來たす、

體操其の他の運動に比して興味大なる爲に動もすれば過勞を來たす危險の伴ふことがある、殊に未だ心、肺臟の發育の充分でない時代少なくとも青年期に達す

るまでの間は、此の點に關し特に注意すべきものである。

ハ、手輕に實施されない。

多くの場合廣き場所を要し、長い時間を要するものである。勿論其れは運動の種類に依り方法に依り必ずしも一樣でない、何れにしても體操の場合の樣に手輕には行はれない。猶人數に制限せられ、或種のものは、人數を絶對に制限し少しの自由も出來ぬものさへある。

二、各人に對して同一の機會を與へないと。

多くの競技は、凡ての競技者に對し、同一の機會を與へず。或る者には多く、或る者には少なく機會を與へ、猶惡いとには大夫にして、餘り身體練習を要しないものには機會を與へ、弱くして無器用のものには少ない機會を與へる。而して發育不良者は彼等の能力の不足から一向に顧みられず屢々傍觀者とされ勝になる。

□

2、球技の教育的價値を述べよ。

球技とはボールをプレーする所の運動であつて其種類甚だ多く隨つて四季を通じて行ひ得る團體競技である。左に之れが教育的價値を身體的方面と精神的方面とに別ちて述べやう。

(1)、身體的方面。

イ、全身運動たること。

轉々として停止するとなきボールを相手に常に走り廻り、或は上肢をも使用し殊に下肢を强く使用するものゲーム中終始駈歩を伴ひ、强き跳躍を誘起し。或は體の捻轉、及び前屈前倒後倒等、殆んど全身の筋骨を使用せざるところなく全く全身的の連續運動と見るとが出來る。隨つて全身の筋骨は其の發達良好なるとを得るとが出來る。

ロ、心臟、肺臟の發育を促がす。

駈歩の如き急速運動、連續さるる爲め心臟の機能は常に適當に働き之が促進さるる事甚多く、又肺臟も呼吸氣量、呼吸量を增加し、著しく其の機能を促進するものである。

ハ、神經系統の機能を促進する。

球技運動は相當な技術を要すものが多い、隨つて全身の調節作用が巧みであるとは種々なる球技運動に興味を感ぜしめるから、自然外的刺戟に對する反應感覺の鋭敏等神經系統の機能は著しく向上する。

(2)、精神的方面。

イ、個人的。

(イ)、公明正大の氣を養成する。

正當なる指導による競技運動は吾人の德性の涵養、高き品性の陶冶上非常なる効果を得るものなれども、殊に球遊により訓練せらるる性質中最も自然的に修得し得るものは、フエアプレーの精神、卽ち競技に際し公明正大なる奮鬪、堂々たるプレー、立派なる試合と言ふ精神であつて、實に球技運動は此の點に於て重要なる道德上の效果を有する。

(ロ)、規律の養成。

球技運動の實施及練習も亦、常に規則的に行ふことに依つて其の效果を收め得るものとす。不規律、不規則の習慣は、日常の生活に於ても亦忌むべきものである。殊に球技運動は他人と共に行動する機會多き爲め規律的行動は必然的の要求として修養せらる。

(ハ)、自信の養成。

球技運動は常に自己の力量を知ると言ふことに容易である。故に個人競技に於て又、團體競技に於ても常に自己の位置、及任務を明かに自覺し、自重して

其の責務を全ふするを得るものである。

(ニ)、勇氣の養成。

運動が常に最大な能力を發揮し强力な意志發現と剛毅なる氣象とは絶えず、自己支配の爲めに、勇氣を鼓舞するを要するものである。本運動が勇氣の精神を養成する手段も亦實に玆に在る。

(ホ)、忍耐心の涵養。

運動に對し、優勝の位置を占むるには、必然的として自己の責任を全ふする上に、堅忍持久の精神を要求せらる。例へば長き時間をゲームに要する運動又非常なる技術の熟練を要する運動の如きは、絶えず努力する結果として忍耐心の養成に卓效あるものとす。

(ヘ)、從順。

各種の球技運動は各嚴格なる規定を存して、此の規定を犯すとは一歩も之を許容せず、此等の規則に對しては絶對に遵守しなければならない。又審判員或は、役員等の行ふとに對しても亦同樣である。故に競技は自然に從順の德を養成するものである。

(ト)、以上の外高き意味の名譽、誠實、果斷、慇懃の諸德性をも容易に運動實施に依り修養し得るものである。

ロ、社會的方面。

社會の一員として個人の體力、及び健康を增進する外に社會的訓練、卽ち社會の一員としての道德的訓練に効一層多いものである。

(イ)、協同一致。

球技運動特に團體的競技に於て最も重大なる要素としては、團體の協同一致といふとであつて、團員は全く一個人の精神の如く相互に補助協力し如何なる時に於ても常に團體の爲めといふ信念の許に行動して初めて團體運動とし

ての目的を到達し得るものである。若し團體の一員にして其目的を誤つたならば、全く團體運動の健全を期すると困難である。

(ロ)、沒我的精神養成。

健全なるゲームは人々の社會生活に必要な協同一致の思想と公正なる精神要素とを得ることが大切と共に健全なる仕事に對し、他と調和せんとする欲求とによつて、沒我的の精神を獲得する上に非常な効果を有する。是れ我國民性中最も缺けたる點にして協同一致の精神と共に大切な社會道德である。

□

3、リレーレースの種類及び競技規則を記せ。

リレーレースとは四人一組となり、それぞれ一定の距離を分擔し順次バトンを受繼で走る團體競走である。

(1)、種類。

(イ)、四百米。

(ロ)、八百米。

(ハ)、千六百米。

(ニ)、三千二百米。

(ホ)、メドレーリレーレース。

普通に行はれてゐるものは、第一走者より順次に二百、四百、八百、二百米を走る。

(2)、競技規則、

イ、出發線の前後十米の地上に二個の線を引き此の二十米の區劃に於て、競技者は必ず次の競技者に木棒を渡さなければならない。

ロ、競技者は同組の競技者を助ける爲めに區劃線外に出る事は出來ない。

ハ、バトンは必ず手渡しすべきものであつて、此を投げ又は落し次の競技者に拾は

せることは出來ない。

ニ、同一競技者二回の出走は許さない。

ホ、決勝競技に出場した組は必ず豫選競技に出場した組に限る。

ヘ、各組の走者は豫選後變更は許さない。

ト、各組の出發線に於ける位置は抽籤に依つて決定する。

チ、競技者の一人として規定の距離を走り終る事が出來ない場合には其競技者の屬する組を除名する。

リ、バトンは周り十二糎長さ三十三糎にして中空なるものとす。

ヌ、不正行爲妨害に關し他の競走競技に屬する總ての規定は之れをリレーレースに適用する。

□

4、競技會プログラム作製上の注意を述べよ。

運動競技會に於てプログラム編成の巧拙は會の進行、競技者の便宜、觀衆の興味持續上大なる影響を來たすものである。左に編成上に於ける注意すべき點を述べやう。

(1)、種目の性質考慮上より。

百米の決勝、棒高跳、走高跳のやうに纖細な技術と氣分を尊ぶ競技は最初に配列することを避け、其の代りに豫選等の必要ある種目は初めに於て行ひ、午前十時乃至午後四時頃迄の間に前者の如き種目を配列すべきである。

(2)、競技者の便宜上より。

百米と二百米、八百米と千五百米、一萬米とマラソン競走との如き運動と、走幅跳とホスジャンプの如き、砲丸投、槍投、圓盤投、ハンマー投等の如き、二百米、百米、八百米、四百米、千六百米、リレーの如き種目は多く同一競技者に依つて參加を申込む場合が多いから、成るべくかかる性質の種目を適當に間隔を置て配列する樣に注意すること。

(3)、觀衆の興味持續上。

觀衆の興味を持續する爲には局部的でなく全體から見得る晴々しい種目を適當に割振り、最後に最も興味あるものを配列する樣注意すること、例へばトラックでは、八百米決勝、二百米決勝、千五百米決勝、又は八百米、千六百米リレーの如き、フィルドでは槍投、圓盤投、走幅跳、走高跳の如きものである。

（以上四問　二時間）

(四)、兵式部分。

□

1、歩兵の本領並に歩兵戰鬪の主眼を述べよ。

歩兵の本領と歩兵の戰鬪の主眼は該兵科に取りて最も重大なるものにして、是等二者の兵士の腦中に深刻に入りたると否とは、直に戰鬪の勝敗に關係すること甚大なりとす。

(1)、歩兵の本領。

歩兵の本領は地形及び時期の如何を問はず、戰鬪を實行し得るに在り。故に歩兵は縱ひ他兵種の協同を缺くことあるも自ら能く戰鬪を準備し、且之を遂行せざる可らずと言ふにあり。

(2)、歩兵戰鬪の主眼。

歩兵戰鬪の主眼は射擊を以て敵を制壓し、突擊を以て之を破摧するに在り。射擊は戰鬪經過の大部分を占むるものにして、歩兵の爲緊要なる戰鬪手段なり。而して戰鬪に最終の決を與ふるものは、銃劍突擊とす。

□

2、教練實施に當り教師自ら注意すべき事項を述べよ。

被教育者の教育者より受くる感化の甚大なることは勿論なり。就中教練の如きは精

神的訓練上強き意味を有するものに於て然りとす。

先に教練實施上教師自ら注意すべき事項を述べん。教官は特に其の態度、服裝を正しくし、常に自ら活潑にして嚴正なる動作の模範を示すことに勉むべし、是れ教官の率先躬行は生徒をして動作の理解を容易ならしめ其の進歩を促がすのみならず精神上多大の影響を與ふるものなればなり。

(1)、體度嚴正にして號令は懦夫をして蹴起せしむる的のものたれ。

(2)、動令を令する前に先づ其の運動の主眼目的を腦裡に描け。然る時は缺點長所を發見するに早く矯正するにも良法なり。

(3)、指揮すべき位置を考慮し風向、動作、隊形に適合すべし。

(4)、教練の實施には必ず敵及敵國を假想せしめ尚武心を發揮せしむべし。

(5)、教練は須く生徒の氣を引き立たせ愉快に熱心に實施し得る樣指導すべし。

(6)、教材の變換につきても、早きに過ぎず然もよく忍耐持久養生の資に供する樣注意せよ。

(7)、平易なる詞を用ひ總て教材の目的貫徹に努むべし。

□

3。**歩哨の守則に就て述べよ。**

歩哨の守則には一般守則と特別守則との二種あり左に述べん。

(1)、一般守則。

イ、歩哨は絶えず敵軍の方向を監督し、凡て疑はしき徵候に深く注意し、若し敵に關して發見せし事あらば速に其一人は小哨に報告すべし、若し猶豫せば危殆に陷ること認めしときは連續數發の射擊を爲して警報し、且つ其一人は小哨に報告すべし。而して敵の單獨兵又は數人より成る斥候の如きは之れを射殺又は捕獲することを圖るべし。

ロ、晝間は我軍の將校、部隊、斥候及傳令に歩哨線の出入を許す。爾餘の者の通過

に關しては凡て小哨長の指示を受くべし。而して歩哨の令する所に從はざる者あれば之を射擊すべし。

ハ、夜間歩哨に近づく者あれば銃を搆へ「誰ヵ」と問ふ。若し呼ぶこと三次に至るも尙、答へざるときは射殺すべし。凡て其他の處置は晝間のものに異なることなし。白旗を飜へし遠方より軍使來たることを標し來る者ある時は、之れを待遇するに敵を以てせず。之れを歩哨線外に留め小哨長に報告すべし。此の規則は敵の單獨兵銃を投棄し、或は遠方より降參人たることを標し來たる時にも亦適用す。然れども降參人にして武器を携帶しあるときは先づ之れを放棄せしむべし

ニ、歩哨は喫烟し、或は銃を手より放すを許さず。又命令あるに非ざれば坐臥するを得ず。而して晝間は立銃を爲すか、或は提銃を爲すか、若くは腕に銃を爲すか、隨意とす。若し上官より質問あれば監視を中止するとなくして之れに答ふべし。

(2)、特別守則。

特別守則は一般守則を補足すべきものにして含有すべき事項概ね左の如し。

イ、其の歩哨の番號。

ロ、敵情。

ハ、前方に在る我部隊及斥候の情況。

ニ、特に監視すべき區域及必要なる道路、村落等の名稱。

ホ、隣歩哨の位置、番號之れとの連絡法。

ヘ、小哨並に中隊の位置及び、此の各位置に通ずる捷路。

□

4、照準法教授の順序方法を述べよ。

照準の正、不正は直に彈丸の命中率に關係すること最も大なり。而して之れが教授の順序方法を考究すること緊要とす。左に順序方法を述べん。

(1)、正しき照準の景況を知得せしむること。

銃を托架上に安置せる砂嚢上に置き約十米の距離に在る中徑零米〇二の黑點の下際に正しく照準したる景況(左圖の如き)を知得せしむ、之が爲要すれば適宜身體を支持せしめ以て銃に觸るることなく、左眼を閉ぢ右眼を以て床尾踵の後方より先づ照門の兩緣水平なるや否を檢し、然る後其の中央より照星頂を通視せしむ。

正しき照準

(2)、照準の實施をなさしむ。

照準の景況を知得せば、各自に砂嚢上に在る銃に就き、右眼を床鼻の後方にし、頰を床尾に觸るることなく輕く呼吸を止め照準を爲さしむ。

教官は射手の照準を檢査し、若し誤りあるときは之れを教示し、射手をして正しく照準し得るに至る迄之れを修正せしむべし。

(3)、照準の正否を檢す。

照準の正否を檢するには照準鑑査法を行ふべし其法左の如し。

銃を砂嚢上に置き白紙を貼りたる標的を約十米の距離に設置し、射手をして助手の現はす鑑査的卽ち中心に細孔を穿ちたる中徑零米〇二の黑圓鈑に細竿を附したるものの下際を先づ照準せしむ。照準終れば助手は鉛筆を以て鑑査的の中心を記し、然る後少しく之れを移動す。射手は銃に觸るることなく以前の照準線を取り助手をして、鑑査的を動かさしめ其の下際を照準線の達する點に導き再び其の中心を記さしむ。

此の如くすれば多少隔りたる二點を得る。此の離隔の大小は照準常に一樣なるや否を判別するを得るものにして、教官は更に助手をして、其の二點中央に鑑査的の中心を一致せしめ、射手の照準したる銃を動かすことなく、其照準線は正しく鑑査的の下際に導かれたるや否を點檢するものとす。若し二點にて不十分なると

きは尙一回行はしめ三點を以てするを可とす。

（以上四問　二時間）

四、大正十五年受驗答案

秋田師範學校教諭　齋藤由理男

體操問題

□

一、**學校體操科に於ける體操の使命を記せ。**

體操の使命は體操科要旨に含まるゝ大體に於て殆んどつきてゐるが單に體操科中の體操のみを拔き考察すれば大體左の五項よりなるものとす。

一、發育助長。

凡そすべての體育運動は勿論發育が助長されるが本來この方面を目的として合理化されたこの體操に於てはその效頗る大である。卽ち解剖生理學を原據として身體各部を平等に動し力附け、圓滿なる發達に導くと云ふその事が明らかにそれを物語るものである。

二、姿勢の矯正。

不自由なる學校生徒とか家庭生活中に生ずる不良なる姿勢がこの學校體操に依つて矯正されることは論ずるまでもない。

三、調齊的訓練をす。

人間身體の調齊力と云ふものは健全とか剛毅とかの諸性と共に必ず必要なものである。肉體が意志の命ずるまゝにならぬとか要求する行爲に對して肉體が相應した行動に出ぬとか云ふことは所謂訓練されたる身體そのものでない斯る點に於て體操は調齊力を向上させるに頗る重大なる使命を有するものである。

四、品性を陶冶する。

肉體を創り調齊力を訓練する外に體操は規律とか服從の道德的價値を創造するに價

値を有するものである。

五、體育趣味の向上。

學校體育の過半はこの體操に費されるのであるからこの體育を通じてすべてに體育趣味を向上せしむるに極めて重大な使命を有するものである。

□

二、體操教材選擇につき考慮すべき事項を記せ。

イ、教材は身體の各部に對する運動を包含してゐなければならぬ（説明を略す）

ロ、選ばれたる各運動はその間に互にその強度形、調齊度に於て相調和してゐなければならない。（同前）

ハ、各群から選ぶ際にその二次的影響を考慮せねばならない。（同前）

ニ、同一姿勢若しくは類似姿勢を反復させてはいけない。（同前）

ホ、徒手と、器械使用と、緩徐と迅速と、團體と個人、等に適當に變化を要す。

（同前）

ヘ、性質的分段に於て相應じた强弱の教材を擇ばねばならぬ。（同前）

以上を大體原則として述べたものであるがこの外に被教育者の年齡、性、體質、及び練習程度クラスの大さ、器具器械の數と場所の廣狹、體操時間の長短、時間數、季節天候等に依り相當變化がなければならない。

□

三、平均運動實施上の注意を述べよ。

平均運動は身體支配の能力を訓練する上に極めて有效な運動であつて體操教程中に於ける極めて重要な位置にあるものであるのみならず調節的教材としても頗る價値多いものであるからその實施上に於ても亦極めて綿密な注意を要するものである。

イ、地上、床上、臺上と各に發達の過程に依つて實施すべきものである。

ロ、器械使用の場合もその形に於て位置に於て高低に於て廣狹に於て充分に考慮す

べき必要あり。

ハ、時間的に制限される場合が教授時間には頗る多いもの故に器械使用の場合にはなるだけ引續いて行ふ樣にすること。

ニ、運動は極めて平靜に行ふべきもの故にその前後に於て急激な變化を身體に與へぬ樣にすること。

□

四、臂立伏臥の要領を詳記せよ。

軀幹部の練習として屈、轉、倒、臥と分類した場合に臥の運動は極めて高度の部類にして從つてその要領も難しいものである臂立伏臥はその代表的のものとして價値方面から見ても重要な運動である左にその要領を列記せん。

イ、體の前倒姿勢を維持しつゝ脚を屈げて體の重心を低めると同時に左(右)脚を後方に伸ばして地につけ兩手を肩幅位に保ちて窮屈ない樣に前方に着く、體勢は整ふ。

ロ、二の擧動にては一の擧動にて作れる體勢を決して動かさぬ樣にして右(左)脚を左(右)脚の脇に添へる。

ハ、頸椎、胸椎、腰椎と脚部とが正しく直立不動の姿勢に於けるそれと等しく保ち臂と體との關係は體重が物理的によく作用する方法にて支へるものとす。その方法としては體と臂との角度を直角か或は臂を地上に垂直に保つものとす。

ニ、進度に應じて脚部を床上よりも高く保ち又は臂屈伸を行ひ或は屈伸と片脚擧上とを連合して行ふものとす又反對に極めて低度のものとして臺上に伏臥したり、殆んど體前倒を伏臥の型に行ふ事もあるのである。尙行ふ過程も三擧動にも四擧動にも又は一擧動にも行ふことが出來るのである。

（以上四問　二時間）

遊戯競技の部

競技遊戯の部

一、學校體操科中の遊戯の使命を記せ。

體育的に又道德的に觀察して最近遊戯熱の隆興せる事は全く悅ぶべき現象である殊にテームゲームの擴張は團體的訓練の方面から觀て又個人的道德的方面から觀て實に偉大なる教育的價値のある事を知るものである。故に學校體操科中の遊戯教授に於てはその價値の偉大なる事に着眼して遊戯せる事に依つて生ずる各方面からその價値を見出さねばならぬ。卽ちその主なる使命を列記すれば左の通りである。

一、體育的價値が大である。

興味に乘り絕へざる活動は已に身體各部の立派なる體育運動である。體操の如く極めて合理的な發育を望むことは不可にしても兎に角運動する事それ自身に價値を有するものなる以上遊戯の體育的價値は偉大なものである。

二、道德的價値をより大にすること。

知德を磨き品性を陶冶するに極めて有效な教育作業である。卽ち、從順、誠實、果斷、忍耐、犧牲、勇氣、自己支配の性能等の個人的道德的修練及び自制心、協同心等の社會的精神を向上させるものである。

三、自發的活動であるべきこと。

兒童の教育を深く考へるもので恐らく兒童の遊戯を考へざるものはないと思ふ。これほど遊戯が彼等兒童の生活と密接な關係を有するものはないと同時にこれほど兒童の教育と關係を有するものはない。彼等にとつては已に飲食や睡眠と同じである。だから之れに依つて彼等の純眞な自然活動、自由獨創、機敏の諸性能を養ふことが出來るのである。

四　社交的であるべきこと。

「個人と個人」「テームとテーム」「學校と學校」更に國際的にまでもその情誼の仲立と

なるこの遊戯は實に社交的である。智力の競爭財力の競爭等を目的にした所謂社交なるものより一歩高尚な社交的行動である事に着眼せなければならぬ。

□

二、バアスケットボールの指導法。

バスケットボールゲームについて少しの素養もない生徒としてその指導法を記す。

一、バッスボール及キャッチボールの練習。

この練習は共にゲームの中心をなすものにして練習のすべてを通じて行はれるものである。而して第一にこの練習を行ふ理由は先づボールの觀念を得せしむることゝボールに對する其の取扱法を圓滑ならしむるにある。バッスすることゝキャッチする事はこれ又同時に行ふ事便宜にして最初は停止して行ひ練習を積むに從つて移動中に行ふ。そして色々の變化をボールに與へて行ふものとす。

二、ドリブルの練習。

バッスボール、キャッチボールが大切な如くに次に必要なものはドリブルボールである。而してこれは大低移動中に行はれるものなり片手のみにて或は兩手を交互に漸次に速かに行ふ。

三、シュウトの練習。

如何にバッス、キャッチ、或はドリブルがよく出來而も圓滑に出來ても最後のシュウトがよく出來なければバアスケットボールの目的を考へない練習法であつて意味をなさぬものと知らねばならぬ。故にすべての練習中このシュウトの練習は最も多くの時間と多くの努力とを注ぐべきものである。その練習法を列記せば。

イ、斜の方向よりシュウト。

ロ、反對の方向よりシュウト。

ハ、正面の方向よりシュウト。

根本になる方法は左の三點にして更にその他の各から各方面から色々の形にシュウ

トする。

以上三項に渡つて根本的練習を經たら次は以上三項の結合練習を行ふ。

四、イ、一、と二、の結合

ロ、一、と三、の結合

ハ、二、と三、の結合

ニ、一、と二、と三、との結合

五、テームとして練習

バアスケットボールは結局はゲームと云ふ型に終るのだから以上の各々の根本練習を經た上にテームワークの練習を行ひ各々ポジションの研究と合せて不斷の練習を行ふよい。

六、ゲーム

最後にゲームを行ふ勿論練習の各過程に於てゲームを行ふて興味をもたせる方法も

七、作戰の研究

八、競技規則の研究

□

三、ホップ、ステップ、ジヤンプの要領を記せ。

ホップ、ステップ、ジャンプの競技は跳躍技の代表的のものと見らるゝ重要な競技にして性質から見て連續的大跳躍である。その要領を分解的に見てその練習形式を左の四つにする。

一、ホップライン前の助走

走巾跳の助走法と全く同じにしてホップの踏切前二歩位の處でフルスピードが出る樣に助走する十六歩で第一のマーク更に十二歩その倍數で各々各人に適した走程をとり助走す。

二、ホップ法

研究を要すべき事はホップラインを正確に踏切る事と利足か不利足かを選ぶ事であるそれは以後述べるステップ、ジャンプに影響するからである。而し大抵の人は利足を有利とする。その足で踏切り跳んで又その足で着陸することをホップと云ふ、助走のスピードを有效に使用する樣にホップす。

三、ステップ法

助走に依つて生じたスピードとホップに依つて多少後に振上げられた反對脚を急に前方に伸し出來るだけ大股に前方に着陸す。狹さに失せずになるべく大さく踏出すこと肝要なり。

四、ジャンプ法、

ホップとステップとに依りて都合よくコントロールされた體を最後に全體力すべてを注いでジャンプする。この方法は走巾跳同樣ステップで着陸せる脚筋の彈力と以前のスピードで跳び兩脚で着陸する。

以上の各方法を總體的に見てホップ、ステップ、ジャンプを長さの割合からはアルゼンチンのブルネード氏の如きは十六米跳ぶにホップ約六米、ステップ約四米五〇、ジャンプ五米五〇の割合で大體練習を積むをよしとせり。尙高さの割合は物理學的の原理からも又事實上からもホップ一、ステップ二、ジャンプ三の割合で練習する方を理想とす。

□

四、陸上競技の役員「レフエリー」の任務を記せ。

最近改正になつた陸上競技規則は從來審判長と稱して居たものを役員長「レフエリー」と改められその任務に於ても從來のものに更に二三つけ加へられた。

一、役員長は實際の競技に於て規則の明文に據り決定し能はざる總ての疑義を決定す。（而してその決定は最終にして抗議することを得ず）

二、同一競走を數組に分ちて豫選競走を行ふ場合と雖も競技者に寡少なりし時は審

判長は數組を合して一組として競走せしむることを得。

三、數組の豫選競走を行ふ場合に於ては各組の第二着者迄決勝競技に加入せしむるものとす。

四、役員長はトラック競技の決勝線に決勝審判主任一名、時計主任一名をおきて各部の指導者たらしめ其範圍内の職務を委任する事を得。

五、役員長は決勝競走に於て反則又は故意の防害が起れるときは概競技者を除名し關係競技者の再競走を行はしむ。

（以上四問　二時間）

解剖生理衞生の問題

□

一、體を左方に捻轉する腹筋名を記せ。

イ、内斜腹筋。

ロ、横腹筋。

ハ、外斜腹筋。

以上の左側にある筋肉の働きに依る。

□

二、一般疲勞の主徴を記せ。

神經疲勞此の疲勞は一般疲勞とも稱し神經の疲勞にして全身に著しい變化を來す。その原因は一樣でないけれども永續運動、一般的力運動、永續運動、急速運動の度を越したる場合に起る疲勞素の中毒にしてその主徴は。

イ、運動の繼續を忍みて休息を好み。

ロ、感情充奮して怒り易く。

ハ、全身倦怠、打撲感、睡眠障害等の異狀を呈し。

二。脈膊は體溫の上昇に併つて頻數となる。

ホ、食慾は頗る減退する。

疲勞も程度に依つて生理的に必要なものであるが以上列記した症狀を呈するまでの一般疲勞は極めて身體に有害なものである。

□

三、強度疲勞の心臟實質に及ぼす影響。

心臟をよく發育せしめ、且つこれを十分鍛練せしめるためには、心臟を強く勞するところの運動單位時間に消費する勢力の大なる運動を過激ならぬ程度に行ふのが最も肝要である　然るにこれに反して色々の形式の運動が強すぎると心臟の實質に頗る異狀な影響を及ぼすことがあるのである。

一、心臟の擴張。

急性心擴張……強度に登山、行軍、競走、スキー等の運動を行ふときに起る病的擴張である。運動の困難に併ふ多量の酸素の要求から生ずるもので心臟の弱いものや呼吸力の弱いものは容易に起すものである。

二、心筋變性。

長距離の行軍や駈歩游泳等を過度に實施するときは心筋變性を起し易い、卽ち心筋の大切なる收縮物質が脂肪硝子澱粉等の物質變化を來し終に液化して抵抗力のない結締組織がこれに代るのである。

三、心壁の破壞。

殊に幼少の者に過激なる運動を行はせると左右房室を區別せる心壁が破れて平等になり所謂心臟の機能を失ひ死に到らしめる場合がある。

□

四、女子の比較的投擲運動に適せざる理由。

投擲運動と云ふも實は全身的運動であつて全身各部のより均齊なる發育狀態にある

ものほど適する運動である。殊に投擲の動作は餘程の迅速性と餘程の體力とを要するものである。然るに元來女子は男子のそれに比較しても左の點に於て多くの缺點を有して居るものだ投擲運動には適せざるものである。

一、四肢殊に上肢の發育が男子に比し不良で所謂體育的な均齊を缺いて居る。

二、軀幹の身長に對する割合が男子のそれに比して長過ぎる。

三、骨盤の發達が大きいために上體との釣合が男子より惡い。

四、女子の筋骨は含水量が多いために重量に於て男子のそれより少い（ブーシャン氏に依れば男二四、五瓩、女一四、七五瓩）

五、女子の脂肪は男子のそれに比して著しく多い。特に迅速性を要する臀部、大腿部に多い。

六、女子の內臟も男子のに比し絕對的に小であるから色々の能率が上らない就中血球乏しく肺活量も春機發動期頃より著しく男子に比し劣つて來る。

以上の諸點が前述の通り投擲技に必要なる均齊的發育、體力、迅速性とあらゆる方面に影響して結局不適當のものとなる。

（以上四問　二時間）

兵式教練の問題

□

一、學校教練の目的を述べよ。

學校教練は由來軍隊の教練の一部を借り來つて兒童、生徒に施し彼等を訓練してやがて國民として完全なるものに練成せんとするのが目的である。

個人的に彼等の身神を鍛練し、規律、服從、勇氣、果斷、犧牲、等の諸道德を磨き而して

社會的に協同一致等の德性を磨練して國民としての資質を向上するのである。

所謂軍事的に國防觀念や戰鬪手段に用ひんとするは副次的のものである。

□

二、左の各語を說明せよ。

一、開進と展開。

開進、接敵のため中隊の各小隊が正規の途上縱隊より橫廣の隊形に擴くことを云ふ、展開、已に開進中の中隊が第一線小隊と第二線卽ち豫備隊とに區分されることを云ふ。

二、豫備隊と援隊。

豫備隊、豫備隊は接敵の際に中隊が展開せる場合に已に定められるもので第一小隊の後方にありて火線を增加し戰果の擴張に任じ又は敵の攻擊を受くる虞ある側面及び背面を掩護するにありて小隊長の指揮下にあるものなり。

援隊、援隊は中隊が分散の形となり各小隊が火線を構成された時にはじめて備へられるものにして火線を增加し突擊に際し新銳の威力を加ふるに在る、先任分隊長の指揮下にあるものなり。

三、對空監視哨。

對空監視哨とは航空機に對して監視を行ふべく備へられるものにして駐軍間にありては前哨區又は舍營區毎に之を設くるものにして一哨所毎に下士又は上等兵を長とする五名又は八名より成る小部隊を以て任ずるものなり。一般守則特別守則に依つて一名乃至二名を交代して監視に任ずるものである。

四、側防。

防禦戰に於て陣地より敵に射擊する場合に正面直下にありてその射擊效力を奏する事不可能な地點に備へるために側方に機關銃その他を以て射擊すべく備へられる陣地を言ふ。

五、作戰命令。

左の要領に於て命令さるゝものとす。

イ、敵軍及友軍の情況。

ロ、指揮者の決心。

ハ、軍隊區分に依り成立せし各部隊の任務。

ニ、指揮官の位置。

□

三、戰備行軍中の警戒法を記せ。

一、「前進行」の場合。

前進行の場合には敵の顧慮上前衞及側衞後衞を出し前進す、此れ等の部隊は敵を搜索し以て本隊を警戒し不意に本隊が敵の攻擊を受くる事なく且つ澁滯なく前進し得せしむるにあり。

前衞。

本隊の前方にあるもので任務遂行に差支ない距離を必要とす。これを區分して前衞本隊、前兵、尖兵、前衞騎兵とす。

側衞。

側方を警戒するために前兵或は前衞本隊又特別な場合には本隊から側衞を出す。本隊の行進路とほゞ併行せる道路を行進し大體前衞に於けるが如き區分をなして行進し前衞又は本隊と絶えず連絡をとる。

後衞。

本隊の後方に敵の騎兵部隊が出沒して、背後をおびやかすときは、その安全を期するため、特に後衞を備へて前進する、その兵力編成は、全く危殆の大小に關係する。

ニ、「退却行」の場合。

戰鬪不利なるか、あるひは狀況上、退却する場合には後衞、側衞、前衞を設ける併し前衞を出すことは極めて稀に起る事である。

後衛。

つとめて行軍縱隊を以て行進しつゝ本隊の退却を掩護する。之がために本隊との距離は、之が行進の遲滯を顧慮し通常前衛に於るよりも長遠な距離をとる。要すれば陣地を占領して敵の前進を拒止する非常な場合等には全軍の犧牲となる覺悟も必要である。

區分は通常後衛本隊、後兵、後衛騎兵に區分する。尖兵等を出すことは前衛に同じ、又工兵を配して道路、橋梁、等を破壞閉塞をなす。

側衛。

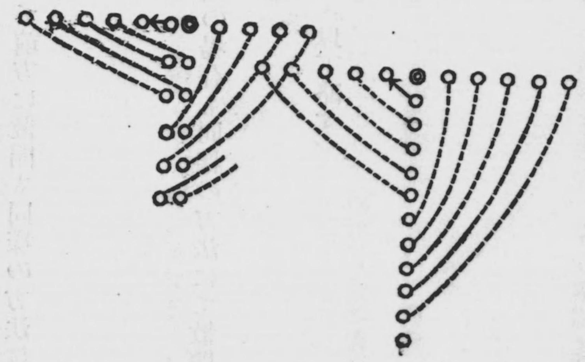
退却行殊に優勢なる敵前に於ては敵兵遠く後衛を廻りて本隊に迫る虞あるを以て特に側衛を後衛又は本隊より派遣するを要する事あり。此の側衛に關しての規定は前進行の側衛を逆にせしものにして之に配屬せられる騎兵は敵と觸接を保持すると同時に絶へず敵の迂回動作を搜索するを要す。

前衛。

專ら退路の通過を自由ならしむるために通常若干の工兵を附加するを以て足れりとす。

四、側面縱隊及び横隊より行ふ小銃分隊の各種散開法を圖示せよ。

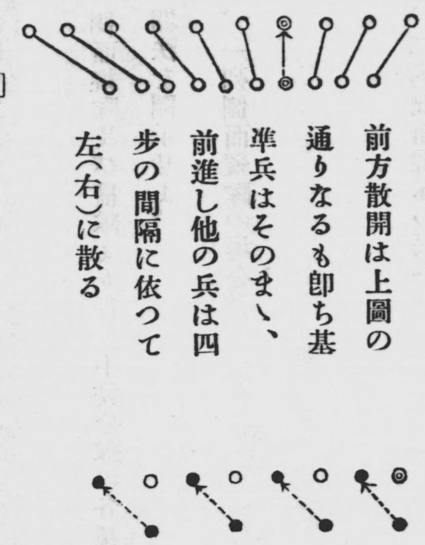
イ、一列側面縱隊の場合。



ロ、二列側面縱隊の場合。

イ、ロは共に其場に散開せる型にて◎兵は基準兵にして前方に散開も同様の方法に依るものとす。

ハ、横隊の場合。



前方散開は上圖の通りなるも卽ち基準兵はそのまゝ、前進し他の兵は四歩の間隔に依つて左(右)に散る

二列の場合も同様の方法にて散開する

（以下略す）

□

五、科學戰について記せ。

最近特に歐洲大戰後は世界各國共科學兵器の研究が盛んに起り精練なる軍隊適切なる指揮と相俟つて戰爭の勝敗に一大素因を爲すものとなつたのである。その重なるものを左に述べん。

一、毒瓦斯。

毒瓦斯とは生理上有害なる瓦斯體の總稱で之を敵に送る方法は彈丸に入れて發射するものと瓦斯放射器に依るものと二方法があるけれど現今は主として前者卽ち砲彈爆彈に依るのが通常である。その種類には

イ、糜爛性瓦斯。

衣服靴等を透して皮膚に炎症を起し內臟に作用して粘膜を腐らせ、終に死に到らしむ。

ロ、窒息性瓦斯。

肺臟に作用してその組織を腫脹せしめ、呼吸作用を止めて窒息死に至らしむるもの

である。

ハ、催涙性瓦斯。

眼を刺戟して開くことが出來なくなるばかりでなく窒息性をも持つてゐて數時間戰鬪力を失はしめる。

ニ、噴嚏性瓦斯。

鼻咽の粘膜を甚しく刺戟して連續嚏を起さしむるばかりでなく、嘔吐をも催させ防毒面を使用することが出來ない樣になる。

ホ、中毒性。

無色の液體にして神經中樞を侵して漸次死に至らしむる。

以上の如く種々の毒瓦斯類が今次の戰爭には盛んに使用せらるる樣になつたがこれに對する防護法も種々發明されたのである。その法は大體個人防護と團體防護の二種に大別する。卽ち防毒面を著けて毒瓦斯を特種の藥品で吸收し又防護衣を以て全身を覆ふ個人的方法と焚火火藥等で毒瓦斯を飛散せしめ或は中和劑を散布する團體的防護法があるのである。

二、煙幕。

戰場で局地を遮蔽する爲めに彈丸、發烟筒或は飛行機から煙幕を作り敵軍の目標を不確實にする方法も最近の戰術に用ひられる、

三、燒夷劑。

都市、建築物、森林等を燒拂ふため彈丸に依り或は航空機から投下するもので「テルミット」及び重油等を使用する。

（以上五問　二時間半）

本試驗

本試驗は豫備發表後一ヶ月をおいて七月十六日から東京高等師範學校で行はれた。

この試驗は全く實技と瞬間的に起る腦力作用の試驗であつた。この意味からして豫備發表後の間に合せ的の練習ではとても合格の見込がないものと思はれた、大體六日間の大半は實地であるがその間に口述あり筆答あり教授法ありでこの間精神作業が試驗官の爲めには遺憾もなく探られるものである。

體操の實地問題。

◎徒手の部。

イ、臂各方伸。

ロ、臂立伏臥。

◎器械使用の部。

イ、平均臺上徐歩行進(途中屈膝擧股二回)

ロ、鐵棒逆上り後下り。

ハ、鐵棒蹴上り脚掛上り振跳び。

ニ、バック開脚垂直跳。

ホ、縱跳箱開脚跳(水平、垂直、斜何づれにでも可)

ヘ、跳箱上轉回(臂立でも倒立でも可)

以上　第一日

以上の材料を一日で行ふのだから仲々容易の業でない。試驗場に於ける各々の努力はどれだつてすべて氣合の籠つたもののみである。落着ふと思つても著着けぬのに平均臺あたりから落ちたらもう試驗の致命傷の樣な感んじになるものだ。毎年の事の樣であるが鐵棒と跳箱の逆立は年々難しい材料に化して行く事は事實である。

第二日目は競技の實技であつた。

イ、走高跳(一米四〇、を二回)

ロ、ハイハードル(ハイハードルの位置にローハードル二個を列べて)

ハ、砲丸投(八米、九米、十米のラインを引いて)

ニ、バアスケットボールのドリブルシユウト。

フォームとレコードとは相關的な關係を有するものであつてフーオムを缺いてよいレコードの生れる筈は殆んどないと言つてもよい。それで今度の競技は兩者を嚴密に見られた樣だつた。走高跳の一米四〇は相等難關でありハードルの步數等も練習なしには到底よく出來るものではない。砲丸投で八十幾名の中十一米ほど投げたものは僅か數名であつた、バアスケットボールシユウトも二回共完全にシユウトされたものはホンの數名にすぎなかつた。

第三日目は教授法の試驗だつた。

以上　二日目

イ、背部練習。

開脚直立、體前倒、臂上振。

ロ、側腹練習。

手胸直立屈膝足側出體側倒。

イ、は午前中の教材でロ、は午後の教材であつた。三分間に立案したのを既教授者三名に三分間に最も教育價値ある樣に教授するのであつた。それには勿論時間に不足や、過剩を出來すのは拙ないやり方で全くのメンタルテストの樣な感んじがしてあつた。私はロの問題を課せられた一人であるが肝要な說明を拔かしたり、實技せぬ中に時間の鈴が鳴つたり、姿勢を取らしめる事を忘れたりする人が仲々多いとの事である。私は次の要領で行つたら極めて都合よく終了した樣だつた。

氣ヲ付ケ。

模範。

練習。

休メ。

說明……分解→總合(動作)

氣ヲ付ケ。

練習。

注意。

休メ。

以上の順序で正味三分間でロ、の教授が出來た。　以上三日目

第四日目は口述試問であつた。私に出された問題は左の通りであつた。

イ、體操教材の實技に於て得手不得手はないか、若しあつたらその理由を、

ロ、體操教師として何年位つとめる積りか。　津崎委員

ハ、青年競技が案外發達がおそい理由は何？

ニ、君の競技レコードは。　大谷委員

ホ、小學校體操科の要旨は。

ヘ、新教授要目改正の要點は。

ト、學校體操教授に於て不滿の點なきか。　吉田委員

以上は體操競技遊戯等に關する一試問であつた一名に尋ぬらるる時間は大凡十分以内でこれも常識的な問題ではあるが相當教育的な論法のもとに答ふる必要があるものと思つた。次は教練の問題である。　高橋委員

近來各學校に配屬將校が來られてその學校の教練の方面は擔任されて居るので吾々の様な一般部分の研究者は不必要を說くものが隨分多い様であるが而し文部省が考へるそれは全然それと反對にして配屬將校に重大な使命を負はせると同時に從來の體操教師にも更に以上の期待を持たれて居るものである事を知らぬばならぬ。それで今回出た問題の如きも從來のものとは全く趣を異にし一段と難解の度を增した様な傾向であつた。私に出された問題は、イ、吾國體の尊嚴なる所以。

ロ、傭兵制度とは如何なるものか。

ハ、「モット早ク」の號令は如何なる場合に用ひらるゝか。　　萩原中佐

以上に對して極めて緻密な點まで質問された。尙他人のものを總合して見ると吾國體を根本にして外來の新思想等に對して極めて深刻な試問がなされた樣だつた。

以上第四日目

第五日目、この日は教練實地試驗のある日である而も本試驗最後の日であつて受驗人總ての稍眉を開いた日だつた。試驗は一分隊を單位にして或は列兵となり或は分隊長となり或は小隊長となつて各個教練に分隊教練、小隊教練を行つた。

私に示された問題は左の如し。

イ、各個教練。

執銃行進。伏射。

ロ、小隊教練。

直行進。縱隊行進。方向變換。

停止。

ハ、分隊教練。

疎開後の分散隊形。

以上の問題について十分間位で實地教練を行ふた。他人のもの等を歸納して見ると今後の教練の實地は以上の範圍內で行はれるものと見た。

五、大正十五年の遊戲競技答案を見て。

野口試驗官は大正十五年八月號の體育と競技に今年の答案を見ると題し左のことがかかれた。

(一)、合格。

一概に合格といへ、不合格といふけれ共、其二者の力の總量に非常な間隔のあ

ると思ふのは誤りである。それは一般的には合格者は不合格者に比較して、優良であるといふことが能きるのであるが、然し現在の、試驗制度は、體操、教練、遊戯及競技及び生理衞生と四科目並立してをり、其の何の科目がそれ〴〵合格點に達しなければならない。而して甲は其の各科共漸く及第點に達したとする、これは合格者となるのである。乙は其の三科目は拔群の成績であつたが一つ缺點になつたとする、其れは不合格者となるのである、つまり甲は上手に試驗をうけたのであり、乙は生憎く下手に受驗したのである。而して其のトータル、サムから言へば、乙は却つて甲より優秀であつたかも知れない。澤山の受驗者の中には此の乙といつた人々も可なりあるのである。蓋し、試驗制度の改革されない以上、乙は何の科目にも、合格點に達する樣に努力するより仕方がないであらう。

(二)、答案の出來榮え。

自分の關係してゐる遊戯競技の問題は四問であつた。第一の『學校體操科に於ける遊戯の任務を記せ』は、後論として選ばれた問題であつて、受驗者は入門第一に研究すべき事項である丈け、無理に出來たといふことが出來やう。

第二の「バスケットボールの指導方法を述べよ」は最近此のゲームは全國的によく普及し、學校に於ては殆んど行はれぬところは無い狀態であり、從つて學校に於けるティーム、ゲームスとして重要な位置を占むるものであるところから選ばれたものである。乍然一面から觀察すれば、此の競技は舊要目の中にあつたとはいへ眞にバスケットボールとしての發達を見たのは最近である。そこで其の內容の說明を所謂此ゲームに堪能な特別のチャムピオンがプレーし、研究するが如き微細の點まで要求したものではない。といつて全然常識的の答案でも困るのであつて、大體バスケットボールのゲームを完全にプレーし得る迄に到達する、其の誘導の過程を訊きたかつたのである。だからバスケットボー

ルの基礎練習にはどんな方法があるか、各プレーアーの任務はどんなであるか等を知つてをれば、自然書ける問題であつて　若しこれに代表的なフォーメーション(陣形)の二つか三つも加へて呉れたら自分は滿足するものであつた。ところが中々此の希望した通りの答案の尠なかつたのは、此のゲームの研究がまだ不足してる爲めであらう、

第三の問題「ホ・ス・ジャンプの要領を述べよ」は苟も陸上競技に心を注ぐ者は、等しく知悉したる問題であつて、若し、所謂點取り問題といふものがありとすれば、これ等は其の一つであるに相違ひない、ところがこんな樂な問題の要點を取り逃して居る人々が可なり多かつたのは如何したことか、即ち、ステップの要領を略して了つてはならぬではないか。

第四の「陸上競技會に於ける役員長の任務を述べよ」は管理に關する問題であつて、又極めて必要な事項である。運動競技會は、競技者の秩序ある行動によつて大部分成功するものであるが、他面其の競技會のマネージメントに當る役員が正しく其の任務を遂行することによつて、競技會は全く成功するものである。而して此等の役員の中、最も重要なる任務に於いて役員長がある。自分は規則の明文に明記されてる役員長の任務は十分に知悉してると想像してゐたものであるが、此れに反して其の答案は多く、規則の明文に依らないで、常識一片で認めたものが多かつた。競技に於ける役員の任務は、受驗者の樣な立場にある者が、多く其の衝に當るものであるから、一層の研究を希ふわけである。

(三)受驗者と理想の確定。

獵師が山に入つて山を見ないといつた樣に、受驗者が各部の受驗科目の學究に汲々としてゐる爲めに却つて肝心な要點を忘却してゐることがある。之れを具體的に言へば、各受驗者は、中等學校の體育教授者とならんが爲に、其

の資格を得やうとして交換を受けるのである。そして此の事は受驗者の誰れもが屹度百も承知に相違ない。ところが、百も承知、二百も合點してをり乍ら、さて其の答案を見ると其の說明の對象が、中等學校の生徒では無くして小學校の兒童になつてゐる。此れを例へば、バスケットボールの指導方法について述べるにしても、其の對象は多く小學校の兒童であつて、從つて其の指導案の餘りに微細のところまで這入つてゐる。否微細の點に而已觸れて、比較的年齡の達した青年期の生徒の心理や身體狀況にピタリと觸れてゐない答案が案外多いのである。これは何の爲めであるか、これはとりも直さず、常に自己の環境に影響せられて、文檢をうけ乍ら、文檢の對象を考へることを忘れてゐる爲めではないか。換言すれば山を見ざる獵師の類ではないか。つまり文檢受驗者は、優良の小學教師になるのではなくして、優良の中等學校の教師になるのであることに注意して受驗者の理想を確定しなければなるまい。

しかしここに附言して置くことは、其の答案の對象として、小學校の兒童を考ふることが絕對に當らないといふわけではない。其の問題の釋意に依つては兒童を對象として結構な場合もある、けれ共、依然原別としての對象は中等學校の生徒であつて、小學校の兒童を選ぶことは特別の場合に於てのみであると考へて間違ひはなからう。

第三節　試驗委員の主査。

□

(一)、生理解剖衞生部分

吉田章信先生。

1、體育研究所技師。東京高等師範學校講師。
2、醫學士。運動生理衞生や、體育資料統計等の著書が澤山あります。
3、本試驗の口述試問にも此方面を一人で御引受けのやうです。

(二)、體操部分。

津崎亥九生先生。

1、東京高等師範教授。
2、御高齡の樣ですが、其御元氣は偉いものです。
3、鐵棒體操にかけては、特に御造詣深くゐらせられます。

大谷武一先生。

1、體育研究所技師、東京高等師範教授。
2、體育學理研究の爲、歐米視察を終られ、其蘊奥を極められてある。
3、悠々迫られない御態度の中に溢れる樣な情味を感ぜられます。
4、柔道三段。水泳技は妙境に達せられ、畏敬の外ありませぬ。

高橋キャウ先生。

1、東京女子高等師範學校教授。
2、女子體育の重任を一人で脊負つて立てゐられる。
3、女子受驗者のダンス等は先生に見ていただくのだ。

□

(三)、競技　分。

野口源三郎先生。

1、東京高等師範學校教授。大日本體育協會理事。體育研究所技師。
2、講習には陣頭に立つて、輕快、明瞭、親切の御指導を頂きます。

3、其著書は現代競技界の明星です。

□

(四)、兵式部分

水足準喜先生。

1、陸軍大尉、東京高等師範學校教官。

藤本勝種先生。

2、須賀先生の後任。現役將校の儘東京高師教官就任。

3、試驗後の所感を講評して頂くことは受驗者に力强い暗示を與へられることを感謝せねばならぬ、

4、軍事教育普及の今日先生方の御指導に待つものの多いことを信じます。

結論

文檢の勝利は。意志の鞏固。身體の頑健。學理探究の深味。規則的練習の永續。精力の配分の運用等にあるのだ。

點滴岩を穿つ。駑馬悲觀に價せず。徹底せる自己自覺より、動かざるの決心意志を固め着々と自己開拓に努力するのだ。

善小なりとも捨つべからず。惡小なりとも顧るなかれ、是れ成功の近道だ。牛の歩みのよし遲くとも。魁る力すくすく下萠る。

附錄

◎受驗規則

教員免許令

朕教員免許令を裁可し玆に之を公布せしむ

御名　御璽

明治三十三年三月三十日　　文部大臣伯爵樺山資紀

勅令第百三十四號（明治三十三年三月三十日官報）

教員免許令

第一條　特別の規定ある場合を除くの外教員免許狀を授與するは本令の定むる所に依る。

第二條　特別の規定ある場合を除くの外本令に依り免許狀を有する者に非されば教員たることを得す但し文部大臣ハ定むる所に依り免許狀を有せさる者を以て教員に充つることを得。

第三條　教員免許狀は教員養成の目的を以て設置したる官立學校の卒業者又は教員檢定に合格したる者に文部大臣之を授與す。

第四條　教員檢定は試驗檢定及無試驗檢定とし教員檢定委員之を行ふ。

第五條　左の各號の一に該當する者は教員檢定を受くることを得す。

一　禁錮以上の刑に處せられたる者但し國事犯にして復權したる者は此の限に在らす。

二、信用若くは風俗を害する罪を犯して罰金の刑に處せられ又は監視に付せられた

る者。

三　破産者は家資分散の宣告を受け復權せさる者又は身代限りの處分を受け債務の辨償を終へさる者。

第六條　教員檢定を出願する者は手數料として一學科目毎に金五圓を納付すべし。

第七條　教員檢定に關する規程は文部大臣之を定む。

第八條　教員免許狀を受けたる者の氏名族籍及免許の學科は官報を以て之を公告す。

第九條　教員免許狀を有するもの其の氏名族籍を變更し又は免許狀を毀損亡失したるときは其の事由を記して免許狀の書換若は再渡を文部大臣に出願することを得。

前項に依り免許狀の書換若は再渡を出願する者は手數料金壹圓を納付すべし。

第十條　教員免許狀を有するもの第五條各號の一に該當したるときは免許狀は其の効力を失ふ。

第十一條　教員免許狀を有する者不正の所爲其の他教員たるへき體面を汚辱するの所爲ありて情狀重しと認むるときは文部大臣は其の免許狀を褫奪す。

第十二條　本令に依り納付すへき手數料は收入印紙を用ゐ之を願書に貼付すへし其既に納めたる後は何等の事情あるも之を還付せす。

附則

第十三條　本令は明治三十三年四月一日より之を施行す。

第十四條　本令施行前文部大臣に於て授與したる師範學校、中學校、高等女學校の教員免許狀及舊東京師範學校に於て授與したる中學師範學科卒業證書は本令に依り授與したる教員免許狀と同一の効力を有す。

教育檢定に關する規程。

明治四十年一月二十六日
文部省令第三十二號

明治四十五年三月十五日
文部省令第三十二號再改正

第一條　教員檢定は受驗人の學力、品行、身體に就き教員たるに堪能なるや否やを檢定するものとす。

第二條　檢定を爲すべき學科目左の如し、但法制及經濟の試驗檢定は修身若は教育の免許狀を有する者の外修身若は教育を併せて出願するにあらされは之を行はす此の場合に於ては其の手數料に關して之を一學科目を看做す。

修身、教育、國語及漢文、英語、佛語、獨語、歴史、地理、數學、物理及化學
博物、理科、法制及經濟、習字、圖畫、家事、裁縫、體操、音樂、簿記、農業
商業、手工、手藝。

歴史は日本史、東洋史。西洋史の二部に數學は算術代數幾何、三角法、解析幾何微分積分の四部に物理及化學は物理、化學の二部に博物は動物及生理、植物、鑛物の三部に圖畫は毛筆畫用器畫、鉛筆畫用器畫の二部に、手藝は刺繍、造花、編物、染色、機織の五部に分ちて檢定を出願するとを得此の場合に於て一學科目の一部若くは數部の檢定を出願するも其手數料に關しては一學科目と看做す。手藝は染色若くは機織を出願する者、裁縫と併せ出願する者、又裁縫若は手藝の免許狀を有する者の外二部以上に就きて檢定を出願するに非れば、試驗を行はす、但染織、機織に就きて當分の中試驗檢定を行はす、前項但書の規定に依り裁縫と手藝の一部とを併せ出願する場合に於ては其の手數料に關しては一學科目と看做す。三角法は算術代數幾何に解析幾何は三角法に微分積分は解析幾何に合格したる上にあらされは檢定を行はす。

第三條　試驗檢定は毎年少くとも一回之を行ひ無試驗檢定は臨時之を行ふ。
試驗檢定の出願期限及試驗を爲すべき學科目は文部大臣に於て之を告示し試驗施行の期日は教員試驗委員會長に於て之を告示す。

第四條　檢定を受けんとする者は第一號書式の願書に左の書類を添へ試驗檢定に在りては豫備試驗を受くへき者は其の受驗地の地方廳其他の者は便宜の地方廳を經由し無試驗檢定に在りては地方廳若は當該學校を經由して文部大臣に出願すへし。

一　第二號書式の履歷書及學業證書若は教員免許狀の寫。

二　第三號書式の學校醫の身體檢査書但し學校醫の設置なき地に在りては明治三十一年文部省令第七號第一條若は第二條に該當する資格ある醫師の檢定書を以てするも妨けなし地方長官又は當該學校長は本人の品行に就き意見を具申することを要す。

第五條　左の各號の一に該當するものは試驗檢定を受くることを得但し第二號に該當する者にありては一箇年以上在學し卒業したる者に限る。

一　中學校卒業者。

二　高等女學校卒業者。

三　專門學校入學者檢定規程に依る試驗檢定に合格したる者。

四　專門學校入學者檢定規程第八條第一號に依り一般の專門學校入學に關し指定を受けたる者。

五　小學校本科正教員の免許狀を有するもの。

六　尋常小學校本科正教員の免許狀を有する者。

七　明治四十二年二月以前に教員免許令に依り授與せられたる教員免許狀を有する者。

第六條　前條の外左の各號の一に該當する者は其學科目に限り試驗檢定を受くることを得。

一　外國に於て師範學校、中學校、高等女學校に準すへき學校を卒業したる者に在りては英語科、佛語科、獨語科。

二　文部大臣に於て適當と認定したる學校を卒業したる者に在りては數學科、物

理及化學科、博物科、裁縫科、手藝科。

三　高等女學校實科、又は實科高等女學校に於て一箇年以上在學し卒業したるものにありては理科、家事科、裁縫科、手藝科。

四　徵兵令第十三條に依り中學校と同等以上と認定せられたる甲種農學校を卒業したる者に在りては農業科。

五　徵兵令第十三條に依り中學校と同等以上と認定せられたる甲種商業學校を卒業したる者に在りては商業科、簿記科。

六　徵兵令第十三條に依り中學校と同等以上と認定せられたる工業學校を卒業したる者に在りては圖畫科、手工科。

七　第七條第一號及第四號に該當する者に在りては文部大臣に於て適當と認めたる學校。

第七條　左の一に該當するものは文部大臣の適當と認めたる學科目に關し無試驗檢定を受くることを得。

一　文部大臣の指定したる學校の卒業者及選科修了者。

二　第五條第一號乃第五號に該當する者にして卒業者の教員無試驗檢定に關し文部大臣の認可を受けたる公立、私立學校に入り三學年以上在學して卒業したる者、但し修業年限四箇年の高等女學校の卒業者に在りては家事裁縫手藝の一科目又は數科目を修むる者の外修業年限は四箇年以上とす。

三　第五條第一號乃至第五號に該當する者又は中學校高等女學校と同等以上の學校の卒業者にして更に外國の大學校若くは之に準すへき學校に於て修學し學位若は卒業證書を受領したる者。

四　外國に於て師範學校、中學校、高等女學校に準すへき學校を卒業し更に大學校若は之に準すへき學校に入り修業し學位若は卒業證書を受領したる者

第八條　試驗檢定を分ちて豫備試驗及本試驗とす但し學科目の種類に依り豫備試驗を

行はさることあるへし。

豫備試驗を施行する學科目に在りては豫備試驗に合格したる者にあらされは本試驗を受くることを得す。

第二條但書の修身若は教育の免許狀を有せさる者に對する法制及經濟の本試驗は修身若は教育の本試驗に合格するにあらされは之を行はす第二條第三項の規定により裁縫と手藝の一部とを併せ出願したる者に對する手藝の本試驗は裁縫の本試驗に含格するにあらされは之を行はす。

第九條　試驗は受驗人出願の學科目に就き其の教員たらむとする學校の學科目を教授するに足るへき程度を標準とし教育の大意及教授法を併せて之を行ふものとす但し教育科出願者及教員免許令に依り授與せられたる教員免許狀竝小學校本科正教員免許狀を有する者に對しては本文教育の大意に關する試驗を行はす。

第十條　豫備試驗は願書經由の地方廳所在地に於て之を行ふ前項試驗の施行は東京府を除くの外地方廳長官之を監督す。

本試驗を行ふへき場所は教員檢定試驗委員會長に於て之を公告す。

第十一條　體操科の試驗檢定を出願したる者にして左の一に該當する者に就きては兵式體操の試驗を行はす。

一　陸軍歩兵科士官。

二　陸軍歩兵科下士任官後滿四年以上現役に服したる者。

三　女子。

第十二條　國語及漢文科の試驗檢定を受けたる者にして國語、漢文の一に關し成績佳良なるときは教員檢定委員會長は其の部分の成績に關し證明書を授與すへし。

前項の證明書を受けたる者にして更に同一學科目に就き試驗檢定を出願したるときは其の證明書に記載せさる部分につき本試驗を行ふ。

第十三條　不正の方法に依り試驗を受けむと企てたる者及試驗に關する規程に違背し

たる者は試驗を受くることを得す。

檢定に合格したる後前項の事實發覺したるときは其の合格を無效とすることあるへし。

附則

第十四條　本令は明治四十二年三月一日より之を施行す（明治四十年改正令附則）

本令は明治四十四年四月一日より施行す（明治四十一年十一月改正令附則）

本令は明治四十五年四月一日より施行す但し第十一條及第一號書式は明治四十六年卽ち（大正二年）四月一日より之を施行す、本令施行前高等女學校の技藝科專修科を卒業したる者又は本令施行の際現に高等女學校の技藝科に存學する者の檢定に關しては乃從前の規定に依る明治四十五年四月以前の各種學校卒業者にして文部大臣に於て第五條第二號及第六條第二號に該當する者と同等の學力ありと指定したる者は明治四十八年（卽ち大正四年）三月まで試驗を受くる事を得明治四十五年三月十五日改正令附則）

第十五條　明治三十二年文部省令第二十五號第二條に依り許可を受けたる學校に現に在學する生徒に對しては其の修業年限は第七條第二號に依らさることを得。

第十六條　左の各號の一に該當する者は第五條及第六條の規程に拘らす試驗檢定を受くることを得但し第一號に該當する者に關しては本令施行後三箇年間に限る。

一　明治四十年四月二十五日現に師範學校中學校高等女學校又は徵兵令第十三條に依り中學校と同等以上と認められたる實業學校の教員の職に在りたる者。

二　前號に該當する者にして試驗檢定を受け教員免許狀を授與せられたる者。

第十七條　明治四十年文部省令第十三號は之を廢止す。

願書の書式

第一號書式（用紙美濃紙）

教員檢定願

收入印紙	㊞

本籍地
現住所
受驗資格
族稱

氏名（フリガナ）

年月日生

學科目

私儀師範學校中學校高等女學校教員志願に付き前記の學科に就き試驗（無試驗）檢定相受度別紙履歷書竝學校醫の身體檢査書相添へ此段相願候也

年　月　日

右

何　某㊞

文部大臣何某殿

第二號書式（用紙美濃紙）

履歷書

氏名

學業

一、年月日何學校に入學年月日何學校卒業
　　證書寫別紙の通

一、年月日何々により何免許狀を受く
　　免許狀寫別紙の通

業務

一、年月日何官聯拜命或は何業に從事年月日依願免官或は廢業又は現今在職從事
　　等

賞罰

一、年月日何事由に依り何賞若は何罰を受く
　　身上に關する事項

一、年月日何事由に依り何と改氏名等

以上

年月日　　右　何　名㊞

第三號書式（用紙美濃紙）

身體檢査書

族籍　　氏名

年月日生

一　體格
一　身長
一　體重
一　胸圍
一　中心視力
　　色盲
　　眼病
一　聽力
　　耳疾
一　呼吸器
一　神經系
一　皮膚
一　言語
一　既往現在の疾病又は畸形

右檢査候處相違無之候也

年月日　　檢査

住所

何學校醫（學校醫にあらざる者なるときは學位若は其資格を記載すへし）

氏　　名㊞

〔別記〕

身體檢査書記載方心得

一　檢査の表記及身長體重胸圍聽力等の檢査方法は明治三十三年文部省令第四號學生

生徒身體檢査規定に準すへし。

一　體格の强健と稱するものは發育營養共に佳良にして其の身長(糎)を以て體重(瓩)を除したる商〇、三二以上且無病健全の者を指す。

一　中等と稱するは發育營養共に普通にして其の身長(糎)を以て體重(瓩)を除したる商〇、二六以上且無病の者を指す。

一　薄弱と稱するは發育營養共に不充分なるか或は身長(糎)を以て體重(瓩)を除したる商〇、二六未滿なるか或は强度の脊柱彎曲、扁平胸、狹小胸若は全身の健康に直接の關係ある慢性の疾患ある者を指す。

一　中心視力はスネルレン氏の試視力表に依りて其の記載方は$^{20}/_{x}$と記すべし但遠視若は近視にありては二十尺の距離に於て二十號を明視し得る眼鏡の度を記載すへし。

色盲は其の有無若し其の患ある者は何色盲と記載すへし。

一　呼吸器は學理的診斷の成績を記載すへし。

一　神經系は中樞若は末梢神經に障害の有無を記載すへし。

一　皮膚は主として傳染症皮膚病の有無を記載すへし若し顏面等に現はれたる皮膚病あるときは之をも記載すへし。

一　言語は明朗、吃、嗄聲等を記載すへし。

一　既往現在の疾病又は畸形は腦病、肺病、肋膜病、脚氣等の曾患、肺病、心臟病、胃腸病等の現在及顯著なる畸形を記載すへし。

第四號書式

證明書

本籍

氏　名

右は年月日本校何科第何學年に入學し年月日同科を卒業せし者なることを證明す

年月日　　何學校長　氏　名㊞

第五號書式

證明書

本籍

氏　名

年月日生

右は年月本校に於て施行の專門學校入學者檢定規程に依る試驗檢定に合格せし者なることを證明す

年月日　　何學校長　氏　名㊞

第六號書式

證明書

本籍

氏　名

年月日生

右は年月日當廳に於て何教員免許狀を授與せし者なることを證明す

年月日　　地方長官　氏　名㊞

第七號書式

證明書

本籍

氏　名

年月日生

右は年月日陸軍歩兵科下士任官以後滿四箇年以上現役に服せし者なることを證明す

年日日

官職　氏　名

試驗の時期

一、文檢の回數。

近來年二回宛施行される。但し體操科は第一回卽ち前回だけに擧行さる。

二、文檢募集の時期。

一月末より二月中の官報に發表さる。

三、出願の時期。

例年三月中か四月上旬頃だ。

四、豫備試驗の時期。

例年五月乃至六月頃だ。

五、本試驗の時期。

例年六月乃至七月頃だ。

六、豫備試驗合格有效期間

次回の本試驗まで有效。體操科にありては翌年度の本試驗までは豫備試驗の受驗

を不必要とする。

但し國民道德、教育大意は必ず其都度受驗すべきだ。

文檢受驗用

體操科研究者の爲に　終

◇體操科參

本書を精讀して體操科の受驗研究に志す人々の御便宜を計りて發行所大同館にては特に御入用品御取次の御用命に應ず。

《但し必ず前金にて定價送料相添へ御申込の事》

《體操科用參考書目錄》

永井道明著	學校體操要義	三、八〇〇	二七〇	圓 厘
島田正藏著	體育原論	三、八〇〇	一八〇	
大谷武一著	學校體操の指導	一、二〇〇	一八〇	
佐々木等著	運動の心理	一、五〇〇	一八〇	
大谷武一著	體育の諸問題	三、〇〇〇	一八〇	
二宮文右衛門著	學校體操	四、〇〇〇	二七〇	
齋藤廣瀨共著	體操教授の實際的新主張	二、〇〇〇	一九〇	
野口源三郎著	オリンピック陸上競技法	四、五〇〇	一八〇	
大林惠美三郎著	改訂運動競技法	一、〇〇〇	一八〇	
可兒德著	遊技競技の實際	二、五〇〇	一八〇	

考書一覽◇

小瀨峰洋著	體育教材としての文檢受驗用 學校舞踏三十四講	二、〇〇〇	一八〇
鈴木忠庸著	生理衞生研究者の爲に	二、八〇〇	一八〇
井上金輔外三名著	生理衞生教授の理論及實際	四、〇〇〇	一八〇
石川日出鶴丸著	石川生理衞生教科書	一、一〇〇	一八〇
武田文三郎著	新思潮に立脚せる生理的體操學	二、八〇〇	二八〇
吉田章一著	體育運動生理	二、七〇〇	一八〇
川瀨元九郎著	生理解剖と體育	二、八〇〇	一八〇

(國民道德要領・教育大意參考用書)

明治教育社篇	文檢受驗用 國民道德要領	二、五〇〇	一八〇
明治教育社篇	文檢受驗用 教育大意	二、五〇〇	一八〇
教育學術會著	教育勅語戊申詔書解義	二、〇〇〇	一八〇
教育學術會著	文檢受驗用 問題解答	一、八〇〇	一二〇
三浦藤作著	國民道德要領教育大意 國民道德要領講義	二、八〇〇	一八〇
三浦藤作著	教育大意講義附教育史大意	三、〇〇〇	一八〇

大正十五年度 世界 日本 各種競技記錄並記錄保持者

陸上競技

世界最高記錄

(男子之部)

(國際競技會公認の記錄を標準とし信じ得べき最新の記錄を加ふ)

(種目) (記錄) (保持者) (年代)

百米 十秒四 パドック(米國) 一九二一年
二百米 二十秒九 ショルツ(米國) 一九二四年
四百米 四十七秒六 リッデル(英國) 一九二四年
八百米 一分五十一秒九 メレディス(米國) 一九一二年
千五百米 三分五十二秒六 ヌルミ(芬蘭) 一九二四年
五千米 十四分二十八秒二 ヌルミ(芬蘭) 一九二四年
一萬米 三十分二十三秒二 リトラ(芬蘭) 一九二四年
百十米ハイ・ハードル 十四秒八 トムソン(加奈陀) 一九二〇年
二百米ロー・ハードル 二十四秒三 福井行雄(日本) 一九二六年
四百米ハードル 五十二秒六 テイラー(米國) 一九二四年
四百米リレー 四一秒 米國チーム(ハッセー、マーテソン、クラーク、レコネー) 一九二四年
八百米リレー 一分二十七秒 米國チーム(ランダース、デヴィス、ヘイモント、スミス) 一九一九年
千六百米リレー 三分十六秒 米國チーム(スチブンソン、マクドナルド、ヘルフリッチ、バーガス) 一九二四年
マラソン(二六哩四分の一) 二時間三十二分三十五秒八 コーレマイネン(芬蘭) 一九二〇年
走幅跳 七米八九六 ハッバード(米國) 一九二五年
走高跳 六呎八吋十六分の十五 オスボーン(米國) 一九二五年
ホップ・ステップ・アンド・ジャンプ 十五米五二五 ウキンター(濠洲) 一九二四年
棒高跳 四米二四七 ホッフ(諾威) 一九二五年
立幅跳 十一呎四吋八分の七 エウリー(米國) 一九〇四年
砲丸投 十五米四四 ローズ(米國) 一九〇九年
圓盤投 百五十八呎二吋二分の一 ハートランフト(米國) 一九二六年
槍投 六十八米五八 ミイラ(芬蘭) 一九二五年
鐵槌投 百八十九呎六吋二分の一 ライアン(米國) 一九一三年
十種競技 七七一〇點七七五 オスボーン(米國) 一九二四年

(女子之部)

(世界的公認團體なきにつき信じ得べき最高記錄を採錄す)

五十米 六秒四 メゼリコヴア(チエック) 一九二二年
百米 十二秒七 寺尾文(日本) 一九二六年
二百米 二十七秒六 人見絹枝(日本) 一九二六年
四百米 一分四秒 ラインス(英國) 一九二二年
八百米 二分三十秒四 レノー(佛國) 一九二二年
千米 三分八秒八 トロツキ(英國) 一九二六年
百碼ハードル 十四秒四 パトソン(米國) 一九二二年
四百米リレー 五十一秒四(英國チーム) 一九二二年
走幅跳 五米七五 人見絹枝(日本) 一九二六年
走高跳 一米五五 ボンズ(佛國) 一九二六年
立幅跳 二米五五 サビー(米國) 一九二二年
立高跳 一米一四 人見絹枝(日本) 一九二五年
ホップ・ステップ・アンド・ジャンプ 十一米六二五 人見絹枝(日本) 一九二五年
棒高跳 二米二〇九 カール(米國) 一九一九年
砲丸投(八封度) 十一米二七 ゴッドボード(米國) 一九二二年
槍投(八百瓦) 二十九米九六九 アガー(米國) 一九二二年
籠球投 三十米六五 堀らめの(日本) 一九二六年

日本最高記錄

(男子之部)

(國の內外を問はず日本人の作れる最高記錄を採錄す)

百米 十秒八 谷三三五(會社員) 大正十四年
二百米 二十二秒二 竹內兵藏(明大) 大正十五年
四百米 五十秒二 納戶德重(高師) 大正十四年
八百米 二分 岡田英夫(慶大) 大正十五年
千五百米 四分七秒八 繩田尚門(早大) 大正十四年
五千米 十五分三十四秒八 永谷壽一(明大) 大正十四年
一萬米 三十二分十一秒八 永谷壽一(明大) 大正十四年
マラソン(二十六哩四分の一) 二時間三十六分九秒 金栗四三(教諭) 大正十三年
百十米ハイ・ハードル 十五秒七 福井行雄(東京高師) 大正十五年
二百米ロー・ハードル 二十四秒三 福井行雄(東京高師) 大正十五年
四百米ハードル 六十秒 今里麟次郎(神戶高商)

(染谷、岡、谷、田尻) 大正十四年
千六百米リレー 三分二十五秒四 日本チーム(小川、田中、松重、納戶) 大正十四年
三千二百米リレー 八分二十六秒六 早大チーム(野村、大槻、川岸、繩田) 大正十四年
走幅跳 七米二四 織田幹雄(早大) 大正十四年
走高跳 一米八八 平岡進(慶大) 大正十五年
棒高跳 三米八〇 森岡佐寡生(早大) 大正十四年
ホップ・ステップ・アンド・ジャンプ 十四米八〇五 織田幹雄(早大) 大正十四年
立幅跳 三米一四 表聰悟(農大) 大正十一年
立幅跳 一米四二 表聰悟(農大) 片岡義雄(明大) 大正十二年(註)兩人同成績につき保持者二人
砲丸投(十六封度) 十三米〇七 瀧川末吉(滿鐵) 大正十五年
(十二封度) 十四米九七五 瀧川末吉(滿鐵) 大正十四年
圓盤投 四十米九四 沖田芳夫(早大) 大正十四年
槍投 五十六米九五 尾崎剛毅(東京高師) 大正十五年
鐵槌投 四十一米四六 沖田芳夫(早大) 大正十五年
五種競技 三三八五點〇八三 齋辰雄(三重高等農林) 大正十五年
十種競技 六七八七點二六五 織田幹雄(早大) 大正十五年

(女子之部)

五十米 六秒六 人見絹枝(教員) 大正十四年
百米 十二秒七 寺尾文(東京第一高女) 大正十五年
二百米 二十七秒六 人見絹枝(大每社員) 大正十五年
二百米リレー 二十五秒八 長岡高女チーム(臼井、酒井、穗刈、高野) 大正十五年
四百米リレー 五十二秒六 二葉クラブチーム(寺尾文、寺尾正、松翁、人見) 大正十五年
走幅跳 五米七五 人見絹枝(大每社員) 大正十五年
走高跳 一米四二 深澤とき(福岡精華高女) 大正十五年
ホップ・ステップ・アンド・ジャンプ 十一米六二五 人見絹枝(教員) 大正十四年
立幅跳 二米四九 人見絹枝(大每社員) 大正十五年
砲丸投(八封度) 十米三九 人見絹枝(大每社員) 大正十五年
籠球投 三十米六五 堀らめの(龍野高女) 大正十五年

明治神宮競技記錄

(一般男子之部)

百米 十秒八 相澤巖(石川) 大正十五年
二百米 二十二秒二 仲田周一(滿洲) 大正十五年
四百米 五十秒八 樽崎正雄(東京) 大正十五年
八百米 二分一秒六 納戶德重(東京) 大正十三年
千五百米 四分十一秒 繩田尚門(東京) 大正十四年
五千米 十五分三十四秒八 永谷壽一(東京) 大正十四年
マラソン 二時間三十八分十秒 道川茂作(青森) 大正十五年
百十米ハイ・ハードル 十五秒七 福井行雄(東京) 大正十五年
二百米ロー・ハードル 二十四秒七 福井行雄(東京) 大正十五年
八百米リレー 一分三十二秒六 山形高等學校チーム(廣澤、李、江、高木) 大正十四年
千六百米リレー 三分三十秒二 東京高師チーム(佐藤、竹內、樽崎、納戶) 大正十四年
走幅跳 七米〇一 織田幹雄(東京) 大正十四年
走高跳 一米七五 平岡進(東京) 大正十五年
ホップ・ステップ・アンド・ジャンプ 十四米五一 織田幹雄(東京) 大正十四年
棒高跳 三米五九 中澤米太郎(東京) 大正十三年
槍投 五十一米二二 村田一常(愛媛) 大正十五年
圓盤投 三十九米二九 沖田芳夫(東京) 大正十四年
十種競技 六七八七點二六五 織田幹雄(東京) 大正十五年

(一般女子之部)

五十米 六秒七 橋本靜子(和歌山) 大正十五年
百米 十二秒七 寺尾文(東京) 大正十五年
二百米リレー 二十五秒八 長岡高女チーム(臼井、酒井、穗刈、高野) 大正十五年
四百米リレー 五十三秒八 長岡高女チーム(上村、酒井、臼井、高野) 大正十四年
ホップ・ステップ・アンド・ジャンプ 十一米三五 人見絹枝(京都) 大正十四年
走高跳 一米四二 深澤とき(靜岡) 大正十四年

(青年團之部)

百米 十一秒四 竹內兵藏(福岡) 大正十三年
四百米 五十二秒二 河合幸二郎(北海道) 大正十五年
千五百米 四分十五秒四 北角昌利(新潟) 大正十五年
一萬米 三十二分四十五秒八 大坪岩吉(佐賀) 大正十五年
八百米リレー 一分三十四秒二 新潟チーム(田中、小林、石山、佐藤) 大正十五年

水上競技

世界最高記錄

(男子之部)

百米 五十七秒四 ワイズミューラー(米) 一九二四年
二百米 二分十五秒六 ワイズミューラー(米) 一九二二年
四百米 四分五十四秒七 アルネボルグ(瑞典) 一九二四年
千五百米 二十分九秒六 チャールトン(濠洲) 一九二四年
百米背泳 一分十一秒四 ケロハ(米)
二百米胸泳 二分五十秒四 ラデマッヘル(獨) 一九二六年
八百米リレー 九分三十八秒二 日本チーム(野田一雄、佐田德平、新井信男、高石勝男) 一九二四年

(女子の部)

百米 一分十二秒二 ウエスロー(米) 一九二四年
二百米 二分四十五秒二 エダール(米) 一九二三年
四百米 五分五十三秒二 エダール(米) 一九二二年
千五百米 二十五分六秒六 ウエンライト(米) 一九二二年
百米背泳 一分二十六秒二 ボーアー(米) 一九二三年
二百米胸泳 三分二十秒四 ギルバート(英) 一九二二年

日本最高記錄

(男子之部)

五十米 二十六秒八 高石勝男(早大) 大正十四年
百米 五十九秒四 高石勝男(早大) 大正十四年
二百米 二分十六秒八 高石勝男(早大) 大正十五年
四百米 五分三秒四 高石勝男(早大) 大正十五年
八百米 十分四十八秒 高石勝男(早大) 大正十五年
千五百米 二十一分五十八秒六 新井信男(同志社中學) 大正十五年
百米背泳 一分十六秒六 木村象雷(早大) 大正十五年
二百米胸泳 二分五十七秒二 鶴田義行(佐世保鎭守府) 大正十五年
二百米リレー 一分五十三秒二 早大チーム(岡田、西オ、石毛、高石) 大正十四年
四百米リレー 四分二十五秒 早大チーム(岡田、西本、石毛、高石) 大正十四年
八百米リレー 九分三十八秒二 日本チーム(野田、佐田、新井、高石) 大正十五年

(女子之部)

五十米 三十五秒八 永井花子(京都武德會) 大正十二年
百米 一分二十四秒二 永井花子 大正十四年
二百米 三分十七秒五 入江廣子(京都武德會) 大正十三年
四百米 七分五秒二 入江廣子(京都武德會) 大正十五年
百米背泳 一分四十二秒六 入江廣子(京都武德會) 大正十五年
二百米胸泳 三分四十三秒 飯村昌子(滿洲) 大正十五年
二百米リレー 二分三十二秒二 京都踏水會チーム(藤井、近藤、島村、永井) 大正十四年
四百米リレー 六分十三秒六(京都武德會)(藤井、近藤、島村、永井) 大正十四年

明治神宮競技記錄

(男子之部)

五十米 二十六秒八 高石勝男(東京) 大正十四年
百米 一分三秒八 齋藤巍洋(東京) 大正十四年
二百米 二分二十八秒 佐竹孝(東京) 大正十四年
四百米 五分十二秒四 高石勝男(東京) 大正十四年
八百米 十二分三十秒六 兒玉博(東京) 大正十二年
千五百米 二十二分四十七秒六 新井信男(京都) 大正十四年
百米背泳 一分十八秒八 齋藤巍洋(東京) 大正十三年
二百米胸泳 三分十二秒八 鶴田義行(長崎) 大正十四年
二百米リレー 一分五十三秒八 稻泳會チーム(西本、小高、奧野、高石) 大正十四年
八百米リレー 十分十秒四 稻泳會チーム(石毛、佐竹、岡田、高石) 大正十四年

(女子之部)

五十米 三十五秒八 永井花子(京都) 大正十四年
百米 一分二十四秒八 永井花子(京都) 大正十四年
二百米 三分三十七秒二 宮崎百合惠(東京) 大正十五年
四百米 七分二十二秒六 駒澤つね子(大阪) 大正十五年
八百米 十五分五十九秒八 江島歌子(東京) 大正十五年

大正十五年度 世界 日本 各種競技記錄並記錄保持者

陸上競技

世界最高記錄

（男子之部）

（國際競技會公認の記錄を標準とし信じ得べき最新の記錄を加ふ）

（種目）（記錄）（保持者）（年代）

百米 十秒四 パドツク（米國） 一九二一年
二百米 二十秒九 シヨルツ（米國） 一九二四年
四百米 四十七秒六 リツデル（英國） 一九二四年
八百米 一分五十一秒九 メレデイス（米國） 一九一二年
千五百米 三分五十二秒六 ヌルミ（芬蘭） 一九二四年
五千米 十四分二十八秒二 ヌルミ（芬蘭） 一九二四年
一萬米 三十分二十三秒二 リトラ（芬蘭） 一九二四年
百十米ハイ・ハードル 十四秒八 トムソン（加奈陀） 一九二〇年
二百米ロー・ハードル 二十四秒三 福井行雄（日本） 一九二六年
四百米ハードル 五十二秒六 テイラー（米國） 一九二四年
四百米リレー 四一秒 米國チーム（ハツセー、マーテソン、クラーク、レコネー） 一九二四年
八百米リレー 一分二十七秒 米國チーム（ランダース、デヴイス、ヘイモント、スミス） 一九一九年
千六百米リレー 三分十六秒 米國チーム（スチブンソン、マクドナルド、ヘルフリツチ、バーガス） 一九二四年
マラソン（二十六哩四分の一） 二時間三十二分三十五秒八 コーレマイネン（芬蘭） 一九二〇年
走幅跳 七米八九六 ハツバード（米國） 一九二五年
走高跳 六呎八吋十六分の十五 オスボーン（米國） 一九二五年
ホツプ・ステツプ・アンド・ジヤンプ 十五米五二五 ウキンター（濠洲） 一九二四年
棒高跳 四米二四七 ホツフ（諾威） 一九二五年
立幅跳 十一呎四吋八分の七 エウリー 一九〇四年
砲丸投 十五米四四 ローズ（米國） 一九〇九年
圓盤投 百五十八呎二吋二分の一 ハートランフト（米國） 一九二六年
槍投 六十八米五八 ミイラ（芬蘭） 一九二五年
鐵槌投 百八十九呎六吋二分の一 ライアン（米國） 一九一三年
十種競技 七七一〇點七七五 オスボーン（米國） 一九二四年

（女子之部）

（世界的公認團體なきにつき信じ得べき最高記錄を採錄す）

五十米 六秒四 メゼリコヴア（チエツク） 一九二二年
百米 十二秒七 寺尾文（日本） 一九二六年
二百米 二十七秒六 人見絹枝（日本） 一九二六年
四百米 一分四秒 ラインス（英國） 一九二二年
八百米 二分三十秒四 レノー（佛國） 一九二二年
千米 三分八秒八 トロツキ（英國） 一九二六年
百碼ハードル 十四秒四 バトソン（米國） 一九二二年
四百米リレー 五十一秒四 英國チーム 一九二二年
走幅跳 五米七五 人見絹枝（日本） 一九二六年
走高跳 一米五五 ボンズ（佛國） 一九二六年
立幅跳 二米五五 サビー（米國） 一九二二年
立高跳 一米一四 人見絹枝（日本） 一九二五年
ホツプ・ステツプ・アンド・ジヤンプ 十一米六二五 人見絹枝（日本） 一九二五年
棒高跳 二米二〇九 カール（米國） 一九一九年
砲丸投（八封度） 十一米二七 ゴツドボード（米國） 一九二二年
槍投（八百瓦） 二十九米九六 九アガー（米國） 一九二二年
籠球投 三十米六五 堀らめの（日本） 一九二六年

日本最高記錄

（男子之部）

（國の内外を問はず日本人の作れる最高記錄を採錄す）

百米 十秒八 谷三三五（會社員） 大正十四年
二百米 二十二秒二 竹内兵藏（明大） 大正十五年
四百米 五十秒二 納戸德重（高師） 大正十四年
八百米 二分 岡田英夫（慶大） 大正十五年
千五百米 四分七秒八 繩田尚門（早大） 大正十四年
五千米 十五分三十四秒八 永谷壽一（明大） 大正十四年
一萬米 三十二分十一秒八 永谷壽一（明大） 大正十四年
マラソン（二十六哩四分の一） 二時間三十六分九秒 金栗四三（教諭） 大正十三年
百十米ハイ・ハードル 十五秒七 福井行雄（東京高師） 大正十五年
二百米ロー・ハードル 二十四秒三 福井行雄（東京高師） 大正十五年
四百米ハードル 六十秒 今里麟次郎（神戸高商）
千六百米リレー 三分二十五秒四 日本チーム（染谷、岡、谷、田尻） 大正十四年
三千二百米リレー 八分二十六秒六 早大チーム（小川、田中、松重、納戸） 大正十四年
（野村、大槻、川岸、繩田） 大正十四年
走幅跳 七米二四 織田幹雄（早大） 大正十四年
走高跳 一米八八 平岡進（慶大） 大正十五年
棒高跳 三米八〇 森岡佐寄生（早大） 大正十四年
ホツプ・ステツプ・アンド・ジヤンプ 十四米八〇五 織田幹雄（早大） 大正十四年
立幅跳 三米一四 表聽悟（農大） 大正十一年
立幅跳 一米四二 表聽悟（農大） 片岡義雄（明大） 大正十二年（註）兩人同成績につき保持者二人
砲丸投（十六封度） 十三米〇七 濤川末吉（滿鐵） 大正十五年
（十二封度） 十四米九七五 濤川末吉（滿鐵） 大正十五年
圓盤投 四十米九四 沖田芳夫（早大） 大正十四年
槍投 五十六米九五 尾崎剛毅（東京高師） 大正十四年
鐵槌投 四十一米四六 沖田芳夫（早大） 大正十五年
五種競技 三三八五點〇八三 齋辰雄（三重高等農林） 大正十五年
十種競技 六七八七點二六五 織田幹雄（早大） 大正十五年

（女子之部）

五十米 六秒六 人見絹枝（教員） 大正十四年
百米 十二秒七 寺尾文（東京第一高女） 大正十五年
二百米 二十七秒六 人見絹枝（大毎社員） 大正十五年
二百米リレー 二十五秒八 長岡高女チーム（臼井、酒井、穂刈、高野） 大正十五年
四百米リレー 五十二秒六 二葉クラブチーム（寺尾文、寺尾正、松翁、人見） 大正十五年
走幅跳 五米七五 人見絹枝（大毎社員） 大正十五年
走高跳 一米四二 深澤とき（靜岡精華高女） 大正十四年
ホツプ・ステツプ・アンド・ジヤンプ 十一米六二五 人見絹枝（教員） 大正十四年
立幅跳 二米四九 人見絹枝（大毎社員） 大正十五年
砲丸投（八封度） 十米三九 人見絹枝（大毎社員） 大正十五年
籠球投 三十米六五 堀らめの（龍野高女） 大正十五年

明治神宮競技記錄

（一般男子之部）

百米 十秒八 相澤巖（石川） 大正十五年
二百米 二十二秒二 什田周一（滿洲） 大正十五年
四百米 五十秒八 樽崎正雄（東京） 大正十五年
八百米 二分一秒六 納戸德重（東京） 大正十三年
千五百米 四分十一秒 繩田尚門（東京） 大正十四年
五千米 十五分三十四秒八 永谷壽一（東京） 大正十四年
マラソン 二時間三十八分十秒 道川茂作（青森） 大正十五年
百十米ハイ・ハードル 十五秒七 福井行雄（東京） 大正十五年
二百米ロー・ハードル 二十四秒七 福井行雄（東京） 大正十五年
八百米リレー 一分三十二秒六 山形高等學校チーム（廣澤、李、江、高木） 大正十四年
千六百米リレー 三分三十秒二 東京高師チーム（佐藤、竹内、樽崎、納戸） 大正十四年
走幅跳 七米〇一 織田幹雄（東京） 大正十四年
走高跳 一米七五 平岡進（東京） 大正十五年
ホツプ・ステツプ・アンド・ジヤンプ 十四米五一 織田幹雄（東京） 大正十四年
棒高跳 三米五九 中澤米太郎（東京） 大正十三年
槍投 五十一米二二 村田一常（愛媛） 大正十五年
圓盤投 三十九米七九 沖田芳夫（東京） 大正十四年
十種競技 六七八七點二六五 織田幹雄（東京） 大正十五年

（一般女子之部）

五十米 六秒七 橋本靜子（和歌山） 大正十五年
百米 十二秒七 寺尾文（東京） 大正十五年
二百米リレー 二十五秒八 長岡高女チーム（臼井、酒井、穂刈、高野） 大正十五年
四百米リレー 五十三秒八 長岡高女チーム（上村、酒井、臼井、高野） 大正十四年
ホツプ・ステツプ・アンド・ジヤンプ 十一米三五 人見絹枝（京都） 大正十四年
走高跳 一米四二 深澤とき（靜岡） 大正十四年

（青年團之部）

百米 十一秒四 竹内兵藏（福岡） 大正十三年
四百米 五十二秒二 河合幸二郎（北海道） 大正十五年
千五百米 四分十五秒四 北角昌利（新潟） 大正十五年
一萬米 三十二分四十五秒八 大坪岩吉（佐賀） 大正十五年
八百米リレー 一分三十四秒二 新潟チーム（田中、小林、石山、佐藤） 大正十五年

水上競技

世界最高記錄

（男子之部）

百米 五十七秒四 ワイズミユーラー（米） 一九二四年
二百米 二分十五秒六 ワイズミユーラー（米） 一九二二年
四百米 四分五十四秒七 アルネボルブ（瑞典） 一九二四年
千五百米 二十分九秒六 チヤールトン（濠洲） 一九二四年
百米背泳 一分十一秒四 ケロハ（米） 一九二六年
二百米胸泳 二分五十秒四 ラデマツヘル（獨） 一九二四年
八百米リレー 九分三十八秒二 日本チーム（野田一雄、佐田徳平、新井信男、高石勝男）

（女子の部）

百米 一分十二秒二 ウエスロー（米） 一九二四年
二百米 二分四十五秒二 エダール（米） 一九二三年
四百米 五分五十三秒二 エダール（米） 一九二二年
千五百米 二十五分六秒六 ウエンライト（米） 一九二二年
百米背泳 一分二十六秒二 ボーアー（米） 一九二三年
二百米胸泳 三分二十秒四 ギルバート（英） 一九二二年

日本最高記錄

（男子之部）

五十米 二十六秒八 高石勝男（早大） 大正十四年
百米 五十九秒四 高石勝男（早大） 大正十四年
二百米 二分十六秒八 高石勝男（早大） 大正十五年
四百米 五分三秒四 高石勝男（早大） 大正十五年
八百米 十分四十八秒 高石勝男（早大） 大正十五年
千五百米 二十一分五十八秒六 新井信男 大正十五年
百米背泳 一分十六秒六 木村象雷（早大） 大正十五年
二百米胸泳 二分五十七秒二 鶴田義行（佐世保鎭守府） 大正十五年
二百米リレー 一分五十三秒二 早大チーム（岡田、西才、石毛、高石） 大正十四年
四百米リレー 四分二十五秒 早大チーム（岡田、西本、石毛、高石） 大正十四年
八百米リレー 九分三十八秒二 日本チーム（野田、佐田、新井、高石） 大正十五年

（女子之部）

五十米 三十五秒八 永井花子（京都武德會） 大正十二年
百米 一分二十四秒二 永井花子 大正十四年
二百米 三分十七秒五 入江廣子（京都武德會） 大正十三年
四百米 七分五秒二 入江廣子（京都武德會） 大正十五年
百米背泳 一分四十二秒六 入江廣子（京都武德會） 大正十五年
二百米胸泳 三分四十三秒 飯村昌子（濠洲） 大正十五年
二百米リレー 二分三十二秒二 京都踏水會チーム（藤井、近藤、島村、永井） 大正十四年
四百米リレー 六分十三秒六 京都武德會（藤井、近藤、島村、永井） 大正十四年

明治神宮競技記錄

（男子之部）

五十米 二十六秒八 高石勝男（東京） 大正十四年
百米 一分三秒八 齋藤巍洋（東京） 大正十四年
二百米 二分二十八秒四 佐竹孝（東京） 大正十四年
四百米 五分十二秒四 高石勝男（東京） 大正十四年
八百米 十二分三十秒六 兒玉博（東京） 大正十三年
千五百米 二十二分四十七秒六 新井信男（京都） 大正十四年
百米背泳 一分十八秒八 齋藤巍洋（東京） 大正十三年
二百米胸泳 三分十二秒八 鶴田義行（長崎） 大正十四年
二百米リレー 一分五十三秒八 稻泳會チーム（西本、小高、奥野、高石） 大正十四年
八百米リレー 十分十秒四 稻泳會チーム（石毛、佐竹、岡田、高石） 大正十四年

（女子之部）

五十米 三十五秒八 永井花子（京都） 大正十四年
百米 一分二十四秒八 永井花子（京都） 大正十四年
二百米 三分三十七秒二 宮崎百合東（東京） 大正十四年
四百米 七分二十二秒六 駒澤つね子（大阪） 大正十五年
八百米 十五分五十九秒八 江島歌子（東京） 大正十五年

(男子之部)

(國際競技會公認の記錄を標準とし信じ得べき最新の記錄を加ふ)

(種目) (記錄) (保持者) (年代)

- 百米 十秒四 パドック(米國) 一九二一年
- 二百米 二十秒九 ショルツ(米國) 一九二四年
- 四百米 四十七秒六 リツデル(英國) 一九二四年
- 八百米 一分五十一秒九 メレディス(米國) 一九一二年
- 千五百米 三分五十二秒六 ヌルミ(芬蘭) 一九二四年
- 五千米 十四分二十八秒二 ヌルミ(芬蘭) 一九二四年
- 一萬米 三十分二十三秒二 リトラ(芬蘭) 一九二四年
- 百十米 ハイ・ハードル 十四秒八 トムソン(加奈陀) 一九二〇年
- 二百米 ロー・ハードル 二十四秒三 福井行雄(日本) 一九二六年
- 四百米 ハードル 五十二秒六 テイラー(米國) 一九二四年
- 四百米リレー 四一秒 米國チーム(ハッセー、マーテソン、クラーク、レコネー) 一九二四年
- 八百米リレー 一分二十七秒 米國チーム(ランダース、デヴイス、ヘイモント、スミス) 一九二四年
- 千六百米リレー 三分十六秒 米國チーム(スチブンソン、マクドナルド、ヘルフリツチ、バーガス) 一九一九年
- マラソン(二十六哩四分の一) 二時間三十二分三十五秒八 コーレマイネン(芬蘭) 一九二〇年
- 走幅跳 七米八九六 ハッバード(米國) 一九二五年
- 走高跳 六呎八吋十六分の十五 オスボーン(米國) 一九二五年
- ホップ・ステップ・アンド・ジャンプ 十五米五二 ウヰンター(濠洲) 一九二四年
- 棒高跳 四米二四七 ホッフ(諾威) 一九二五年
- 立幅跳 十一呎四吋八分の七 エウリー 一九〇四年
- 砲丸投 十五米四四 ローズ(米國) 一九〇九年
- 圓盤投 百五十八呎二吋二分の一 ハートランフト(米國) 一九二六年
- 槍投 六十八米五八 ミイラ(芬蘭) 一九二五年
- 鐵槌投 百八十九呎六吋二分の一 ライアン(米國) 一九一三年
- 十種競技 七七一〇點七七五 オスボーン(米國) 一九二四年

(女子之部)

(世界的公認團體なきにつき信じ得べき最高記錄を採錄す)

- 五十米 六秒四 メゼリコヴア(チェック) 一九二二年
- 百米 十二秒七 寺尾文(日本) 一九二六年
- 二百米 二十七秒六 人見絹枝(日本) 一九二六年
- 四百米 一分四秒 ラインス(英國) 一九二二年
- 八百米 二分三十秒四 レノー(佛國) 一九二二年
- 千米 三分八秒八 トロツキ(英國) 一九二六年
- 百碼ハードル 十四秒四 バトソン(米國) 一九二二年
- 四百米リレー 五十一秒四(英國チーム) 一九二二年
- 走幅跳 五米七五 人見絹枝(日本) 一九二六年
- 走高跳 一米五五 ボンズ(佛國) 一九二六年
- 立幅跳 二米五五 サビー(米國) 一九二二年
- 立高跳 一米一四 人見絹枝(日本) 一九二五年
- ホップ・ステップ・アンド・ジャンプ 十一米六二 五 人見絹枝(日本) 一九二五年
- 棒高跳 二米二〇九 カール(米國) 一九一九年
- 砲丸投(八封度) 十一米二七 ゴッドボード(米國)
- 槍投(八百瓦) 二十九米九六 九アガー(米國) 一九二二年
- 籠球投 三十米六五 堀らめの(日本) 一九二二年 一九二六年

日本最高記錄

(男子之部)

(國の内外を問はず日本人の作れる最高記錄を採錄す)

- 百米 十秒八 谷三三五(會社員) 大正十四年
- 二百米 二十二秒二 竹内兵藏(明大) 大正十五年
- 四百米 五十秒二 紀戸德重(高師) 大正十四年
- 八百米 二分 岡田英夫(慶大) 大正十五年
- 千五百米 四分七秒八 縄田尚門(早大) 大正十四年
- 五千米 十五分三十四秒八 永谷壽一(明大) 大正十四年
- 一萬米 三十二分十一秒八 永谷壽一(明大) 大正十四年
- マラソン(二十六哩四分の一) 二時間三十六分九秒 金栗四三(教諭) 大正十三年
- 百十米 ハイ・ハードル 十五秒七 (東京高師) 福井行雄 大正十五年
- 二百米 ロー・ハードル 二十四秒三 (東京高師) 福井行雄 大正十五年
- 四百米 ハードル 六十秒 今里麟次郎(神戸高商) 大正十五年
- 四百米リレー 四十四秒二 全日本チーム 大正十四年
- 八百米リレー 一分三十秒 日本チーム(西野、谷、大村、高木) 大正十二年
- 走幅跳 七米二四 織田幹雄(早大) 大正十四年
- 走高跳 一米八八 平岡進(慶大) 大正十五年
- 棒高跳 三米八〇 森岡佐喜生(早大) 大正十四年
- ホップ・ステップ・アンド・ジャンプ 十四米八〇 五 織田幹雄(早大)
- 立幅跳 三米一四 表聽悟(農大) 大正十四年
- 立幅跳 一米四二 表聽悟(農大)、片岡義雄(明大) 大正十一年 大正十二年(註)兩人同成績につき保持者二人
- 砲丸投(十六封度) 十三米〇七 溝川末吉(滿鐵) 大正十五年
- (十二封度) 十四米九七五 溝川末吉(滿鐵) 大正十四年
- 圓盤投 四十米九四 沖田芳夫(早大) 大正十四年
- 槍投 五十六米九五 尾崎剛毅(東京高師) 大正十五年
- 鐵槌投 四十一米四六 沖田芳夫(早大) 大正十五年
- 五種競技 三三八五點〇八三 齋辰雄(三重縣高等農林) 大正十五年
- 十種競技 六七八七點二六五 織田幹雄(早大) 大正十五年

(女子之部)

- 五十米 六秒六 人見絹枝(教員) 大正十四年
- 百米 十二秒七 寺尾文(東京第一高女) 大正十五年
- 二百米 二十七秒六 人見絹枝(大毎社員) 大正十五年
- 二百米リレー 二十五秒八 長岡高女チーム(臼井、酒井、穂刈、高野) 大正十五年
- 四百米リレー 五十二秒六 二葉クラブチーム(寺尾文、寺尾正、松翁、人見) 大正十五年
- 走幅跳 五米七五 人見絹枝(大毎社員) 大正十五年
- 走高跳 一米四二 深澤とき(靜岡精華高女) 大正十五年
- ホップ・ステップ・アンド・ジャンプ 十一米六二 五 人見絹枝(教員) 大正十四年
- 立幅跳 二米四九 人見絹枝(大毎社員) 大正十五年
- 砲丸投(八封度) 十米三九 人見絹枝(大毎社員) 大正十五年
- 籠球投 三十米六五 堀らめの(龍野高女) 大正十五年

明治神宮競技記錄

(一般男子之部)

- 百米 十秒八 相澤巖(石川) 大正十五年
- 二百米 二十二秒 仲田周一(滿洲) 大正十五年
- 四百米 五十秒八 樽崎正雄(東京) 大正十五年
- 八百米 二分一秒六 納戸德重(東京) 大正十三年
- 千五百米 四分十一秒 縄田尚門(東京) 大正十四年
- 五千米 十五分三十四秒八 永谷壽一(東京) 大正十四年
- マラソン 二時間三十八分十秒 道川茂作(青森) 大正十四年
- 百十米ハイ・ハードル 十五秒七 福井行雄(東京) 大正十五年
- 二百米ロー・ハードル 二十四秒七 福井行雄(東京) 大正十五年
- 八百米リレー 一分三十二秒六 山形高等學校チーム(廣澤、李、江、高木) 大正十四年
- 千六百米リレー 三分三十秒二 東京高師チーム(佐藤、竹内、樽崎、納戸) 大正十四年
- 走幅跳 七米〇一 織田幹雄(東京) 大正十四年
- 走高跳 一米七五 平岡進(東京) 大正十五年
- ホップ・ステップ・アンド・ジャンプ 十四米五一 織田幹雄(東京) 大正十五年
- 棒高跳 三米五九 中澤米太郎(東京) 大正十三年
- 槍投 五十一米二二 村田一常(愛媛) 大正十五年
- 圓盤投 三十九米七九 沖田芳夫(東京) 大正十四年
- 十種競技 六七八七點二六五 織田幹雄(東京) 大正十五年

(一般女子之部)

- 五十米 六秒七 橋本靜子(和歌山) 大正十五年
- 百米 十二秒七 寺尾文(東京) 大正十五年
- 二百米リレー 二十五秒八 長岡高女チーム(臼井、酒井、穂刈、高野) 大正十五年
- 四百米リレー 五十三秒八 長岡高女チーム(上村、酒井、臼井、高野) 大正十四年
- ホップ・ステップ・アンド・ジャンプ 十一米三五 五 人見絹枝(京都) 大正十四年
- 走高跳 一米四二 深澤とき(靜岡) 大正十四年

(青年團之部)

- 百米 十一秒四 竹内兵藏(福岡) 大正十三年
- 四百米 五十二秒二 河合幸二郎(北海道) 大正十五年
- 千五百米 四分十五秒四 北角昌利(新潟) 大正十五年
- 一萬米 三十二分四十五秒八 大坪岩吉(佐賀) 大正十五年
- 八百米リレー 一分三十四秒二 新潟チーム(田中、小林、石山、佐藤) 大正十五年
- 走幅跳 六米五七 木村龜吉(廣島) 大正十五年
- 走高跳 一米七三 田中平一郎(靜岡) 大正十五年
- 砲丸投(十二封度) 十三米六八五 龜田繁雄(北海道) 大正十五年

(男子之部)

- 百米 五十七秒四 ワイズミューラー(米) 一九二四年
- 二百米 二分十五秒六 ワイズミューラー(米) 一九二二年
- 四百米 四分五十四秒七 アルネボルグ(瑞典) 一九二四年
- 千五百米 二十分九秒六 チャールトン(濠洲) 一九二四年
- 百米背泳 一分十一秒四 ケロハ(米) 一九二六年
- 二百米胸泳 二分五十秒四 ラデマツヘル(獨) 一九二四年
- 八百米リレー 九分三十八秒二 日本チーム(野田一雄、佐田徳平、新井信男、高石勝男)

(女子の部)

- 百米 一分十二秒二 ウエスロー(米) 一九二四年
- 二百米 二分四十五秒二 エダール(米) 一九二三年
- 四百米 五分五十三秒二 エダール(米) 一九二二年
- 千五百米 二十五分六秒六 ウエンライト(米) 一九二二年
- 百米背泳 一分二十六秒二 ボーアー(米) 一九二三年
- 二百米胸泳 三分二十秒四 ギルバート(英) 一九二二年

日本最高記錄

(男子之部)

- 五十米 二十六秒八 高石勝男(早大) 大正十四年
- 百米 五十九秒四 高石勝男(早大) 大正十四年
- 二百米 二分十六秒八 高石勝男(早大) 大正十五年
- 四百米 五分三秒四 高石勝男(早大) 大正十五年
- 八百米 十分四十八秒 高石勝男(早大) 大正十五年
- 千五百米 二十一分五十八秒六 新井信男(同志社中學) 大正十五年
- 百米背泳 一分十六秒六 木村象雷(早大) 大正十五年
- 二百米胸泳 二分五十七秒二 鶴田義行(佐世保鎭守府) 大正十五年
- 二百米リレー 一分五十三秒二 早大チーム(岡田、西才、石毛、高石) 大正十四年
- 四百米リレー 四分二十五秒 早大チーム(岡田、西本、石毛、高石) 大正十四年
- 八百米リレー 九分三十八秒二 日本チーム(野田、佐田、新井、高石) 大正十五年

(女子之部)

- 五十米 三十五秒八 永井花子(京都武德會) 大正十二年
- 百米 一分二十四秒二 永井花子(京都武德會) 大正十四年
- 二百米 三分十七秒五 入江廣子(京都武德會) 大正十三年
- 四百米 七分五秒二 入江廣子(京都武德會) 大正十五年
- 百米背泳 一分四十二秒六 入江廣子(京都武德會) 大正十五年
- 二百米胸泳 三分四十三秒 飯村昌子(滿洲) 大正十五年
- 二百米リレー 二分三十二秒二 京都踏水會チーム(藤井、近藤、島村、永井) 大正十四年
- 四百米リレー 六分十三秒六 京都武德會(藤井、近藤、島村、永井) 大正十四年

明治神宮競技記錄

(男子之部)

- 五十米 二十六秒八 高石勝男(東京) 大正十四年
- 百米 一分三秒八 齋藤巍洋(東京) 大正十四年
- 二百米 二分二十八秒 佐竹孝(東京) 大正十四年
- 四百米 五分十二秒四 高石勝男(東京) 大正十四年
- 八百米 十二分三十秒六 兒玉博(東京) 大正十四年
- 千五百米 二十二分四十七秒六 新井信男(京都) 大正十二年
- 百米背泳 一分十八秒八 齋藤巍洋(東京) 大正十四年
- 二百米胸泳 三分十二秒八 鶴田義行(長崎) 大正十三年
- 二百米リレー 一分五十三秒八 稻泳會チーム(西本、小高、奥野、高石) 大正十四年
- 八百米リレー 十分十秒四 稻泳會チーム(石毛、佐竹、岡田、高石) 大正十四年

(女子之部)

- 五十米 三十五秒八 永井花子(京都) 大正十四年
- 百米 一分二十四秒八 永井花子(京都) 大年十四年
- 二百米 三分三十七秒二 宮崎百合恵(東京) 大正十五年
- 四百米 七分二十二秒六 駒澤つね子(大阪) 大正十五年
- 八百米 十五分五十九秒八 江島歌子(東京) 大正十五年
- 百米背泳 一分五十二秒五 月女年子(東京) 大正十五年
- 二百米臂泳 三分四十六秒六 布施苑子(京都) 大正十四年

陸上競技

世界最高記錄

（男子之部）

（國際競技會公認の記錄を標準とし信じ得べき最新の記錄を加ふ）

（種目）（記錄）（保持者）（年代）

百米 十秒四 パドック（米國） 一九二一年
二百米 二十秒九 ショルツ（米國） 一九二四年
四百米 四十七秒六 リッデル（英國） 一九二四年
八百米 一分五十一秒九 メレディス（米國） 一九一二年
千五百米 三分五十二秒六 ヌルミ（芬蘭） 一九二四年
五千米 十四分二十八秒二 ヌルミ（芬蘭） 一九二四年
一萬米 三十分二十三秒二 リトラ（芬蘭） 一九二四年
百十米 ハイ・ハードル 十四秒八 トムソン（加奈陀） 一九二〇年
二百米 ロー・ハードル 二十四秒三 福井行雄（日本） 一九二六年
四百米 ハードル五十二秒六 テイラー（米國） 一九二四年
四百米リレー 四一秒 米國チーム（ハッセー、マーテソン、クラーク、レコネー） 一九二四年
八百米リレー 一分二十七秒 米國チーム（ランダース、デヴィス、ヘイモント、スミス） 一九一九年
千六百米リレー 三分十六秒 米國チーム（スチブンソン、マクドナルド、ヘルフリッチ、バーガス） 一九二四年
マラソン（二六哩四分の一） 二時間三十二分三十五秒八 コーレマイネン（芬蘭） 一九二〇年
走幅跳 七米八九六 ハッバード（米國） 一九二五年
走高跳 六呎八吋十六分の十五 オスボーン（米國） 一九二五年
ホップ・ステップ・アンド・ジャンプ 十五米五二 ウヰンター（濠洲） 一九二四年
棒高跳 四米二四七 ホッフ（諾威） 一九二五年
立幅跳 十一呎四吋八分の七 エウリー 一九〇四年
砲丸投 十五米五四 ローズ（米國） 一九〇九年
圓盤抛 百五十八呎二吋二分の一 ハートランフト（米國） 一九二六年
槍投 六十八米五八 ミイラ（芬蘭） 一九二五年
鐵槌投 百八十九呎六吋二分の一 ライアン（米國） 一九一三年
十種競技 七七一〇點七七五 オスボーン（米國） 一九二四年

（女子之部）

（世界的公認團體なきにつき信じ得べき最高記錄を採錄す）

五十米 六秒四 メゼリコヴァ（チェック） 一九二二年
百米 十二秒七 寺尾文（日本） 一九二六年
二百米 二十七秒六 人見絹枝（日本） 一九二六年
四百米 一分四秒 ラインス（英國） 一九二二年
八百米 二分三十秒四 ブレノー（佛國） 一九二二年
千米 三分八秒八 トロッキ（英國） 一九二六年
百碼ハードル 十四秒四 バトソン（米國）
四百米リレー 五十一秒四（英國チーム） 一九二二年
走幅跳 五米七五 人見絹枝（日本） 一九二六年
走高跳 一米五五 ボンズ（佛國） 一九二六年
立幅跳 二米五五 サビー（米國） 一九二二年
立高跳 一米一四 人見絹枝（日本） 一九二五年
ホップ・ステップ・アンド・ジャンプ 十一米六二 人見絹枝（日本）
棒高跳 二米二〇九 カール（米國） 一九二五年
砲丸投（八封度） 十一米二七 ゴッドボード（米國） 一九一九年
槍投（八百瓦） 二十九米九六 アガー（米國） 一九二二年
籠球投 三十米六五 堀らめの（日本） 一九二六年

日本最高記錄

（男子之部）

（國の内外を問はず日本人の作れる最高記錄を採錄す）

百米 十秒八 谷三三五（會社員） 大正十四年
二百米 二十二秒 竹内兵藏（明大） 大正十五年
四百米 五十秒二 納戸徳重（高師） 大正十四年
八百米 二分二秒 岡田英夫（慶大） 大正十五年
千五百米 四分七秒八 縄田尚門（早大） 大正十四年
五千米 十五分三十四秒八 永谷壽一（明大） 大正十四年
一萬米 三十二分十一秒八 永谷壽一（明大） 大正十四年
マラソン（二十六哩四分の一） 二時間三十六分九秒 金栗四三（教諭） 大正十三年
百十米ハイ・ハードル 十五秒七 福井行雄（東京高師） 大正十五年
二百米ロー・ハードル 二十四秒三 福井行雄（東京高師） 大正十五年
四百米ハードル 六十秒 今里麟次郎（神戸高商） 大正十五年
四百米リレー 四十四秒二 全日本チーム 大正十四年
八百米リレー 一分三十秒 日本チーム（西野、谷、大村、高木） 大正十二年
[illegible]（小川、田中、松重、納戸） 大正十四年
三千二百米リレー 八分二十六秒六 早大チーム（野村、大槻、川岸、縄田） 大正十四年
走幅跳 七米二四 織田幹雄（早大） 大正十四年
走高跳 一米八八 平岡進（慶大） 大正十五年
棒高跳 三米八〇 森岡佐喜生（早大） 大正十四年
ホップ・ステップ・アンド・ジャンプ 十四米八〇 織田幹雄（早大）
立幅跳 三米一四 表聴悟（農大） 大正十一年
立高跳 一米四二 表聴悟（農大）、片岡義雄（明大） 大正十二年（註）兩人同成績につき保持者二人
砲丸投（十六封度） 十三米〇七 溝川末吉（滿鐵） 大正十五年
（十二封度） 十四米九七五 溝川末吉（滿鐵） 大正十四年
圓盤投 四十米九四 沖田芳夫（早大） 大正十四年
槍投 五十六米九五 尾崎剛毅（東京高師） 大正十五年
鐵槌投 四十一米四六 沖田芳夫（早大） 大正十五年
五種競技 三三八五點〇八三 齋藤辰雄（三重高等農林） 大正十五年
十種競技 六七八七點二六五 織田幹雄（早大） 大正十五年

（女子之部）

五十米 六秒六 人見絹枝（教員） 大正十四年
百米 十二秒七 寺尾文（東京第一高女） 大正十五年
二百米 二十七秒六 人見絹枝（大毎社員） 大正十五年
二百米リレー 二十五秒八 長岡高女チーム（臼井、酒井、穂刈、高野） 大正十五年
四百米リレー 五十二秒六 二葉クラブチーム（寺尾文、寺尾正、松翁、人見） 大正十五年
走幅跳 五米七五 人見絹枝（大毎社員） 大正十五年
走高跳 一米四二 深澤とき（静岡精華高女） 大正十四年
ホップ・ステップ・アンド・ジャンプ 十一米六二 人見絹枝（教員） 大正十四年
立幅跳 二米四九 人見絹枝（大毎社員） 大正十五年
砲丸投（八封度） 十米三九 人見絹枝（大毎社員） 大正十五年
籠球投 三十米六五 堀らめの（龍野高女） 大正十五年

明治神宮競技記錄

（一般男子之部）

百米 十秒八 相澤巖（石川） 大正十五年
二百米 二十二秒 仲田周一（滿洲） 大正十五年
四百米 五十秒八 樽崎正雄（東京） 大正十五年
八百米 二分一秒六 納戸徳重（東京） 大正十三年
千五百米 四分十一秒 縄田尚門（東京） 大正十四年
五千米 十五分三十一秒四 永谷壽一（東京） 大正十四年
マラソン 二時間三十八分十秒 道川茂作（青森） 大正十四年
百十米ハイ・ハードル 十五秒七 福井行雄（東京） 大正十五年
二百米ロー・ハードル 二十四秒七 福井行雄（東京） 大正十五年
八百米リレー 一分三十二秒六 山形高等學校チーム（廣澤、李、江、高木） 大正十四年
千六百米リレー 三分三十秒二 東京高師チーム（佐藤、竹内、樽崎、納戸） 大正十四年
走幅跳 七米〇一 織田幹雄（東京） 大正十四年
走高跳 一米七五 平岡進（東京） 大正十五年
ホップ・ステップ・アンド・ジャンプ 十四米五一 織田幹雄（東京） 大正十五年
棒高跳 三米五二 中澤米太郎（東京） 大正十三年
槍投 五十一米二二 村田一常（愛媛） 大正十五年
圓盤投 三十九米七九 沖田芳夫（東京） 大正十四年
十種競技 六七八七點二六五 織田幹雄（東京） 大正十五年

（一般女子之部）

五十米 六秒七 橋本靜子（和歌山） 大正十五年
百米 十二秒七 寺尾文（東京） 大正十五年
二百米リレー 二十五秒八 長岡高女チーム（臼井、酒井、穂刈、高野） 大正十五年
四百米リレー 五十三秒八 長岡高女チーム（上村、酒井、臼井、高野） 大正十四年
ホップ・ステップ・アンド・ジャンプ 十一米三五 人見絹枝（京都） 大正十四年
走高跳 一米四二 深澤とき（静岡） 大正十四年

（青年團之部）

百米 十一秒四 竹内兵藏（福岡） 大正十三年
四百米 五十二秒二 河合幸二郎（北海道） 大正十五年
千五百米 四分十五秒四 北角昌利（新潟） 大正十五年
一萬米 三十二分四十五秒八 大坪岩吉（佐賀） 大正十五年
八百米リレー 一分三十四秒二 新潟チーム（田中、小林、石山、佐藤） 大正十五年
走幅跳 六米五七 木村龜吉（廣島） 大正十五年
走高跳 一米七三 田中平一郎（靜岡） 大正十五年
砲丸投（十二封度） 十三米六八五 龜田繁雄（北海道） 大正十五年

水上競技

世界最高記錄

（男子之部）

百米 五十七秒四 ワイズミューラー（米） 一九二四年
二百米 二分十五秒六 ワイズミューラー（米） 一九二二年
四百米 四分五十四秒七 アルネボルグ（瑞典） 一九二四年
千五百米 二十分九秒六 チャールトン（濠洲） 一九二四年
百米背泳 一分十一秒四 ケロハ（米） 一九二六年
二百米胸泳 二分五十秒四 ラデマッヘル（獨） 一九二四年
八百米リレー 九分三十八秒二 日本チーム（野田一雄、佐田徳平、新井信男、高石勝男） 一九二四年

（女子の部）

百米 一分十二秒二 ウエスロー（米） 一九二四年
二百米 二分四十五秒二 エダール（米） 一九二三年
四百米 五分五十三秒二 エダール（米） 一九二二年
千五百米 二十五分六秒六 ウエンライト（米） 一九二二年
百米背泳 一分二十六秒二 ボーアー（米） 一九二三年
二百米胸泳 三分二十秒四 ギルバート（英） 一九二二年

日本最高記錄

（男子之部）

五十米 二十六秒八 高石勝男（早大） 大正十四年
百米 五十九秒四 高石勝男（早大） 大正十四年
二百米 二分十六秒八 高石勝男（早大） 大正十四年
四百米 五分三秒四 高石勝男（早大） 大正十五年
八百米 十分四十八秒 高石勝男（早大） 大正十五年
千五百米 二十一分五十八秒六 新井信男（同志社中學） 大正十五年
百米背泳 一分十六秒六 木村象雷（早大） 大正十五年
二百米胸泳 二分五十七秒二 鶴田義行（佐世保鎭守府） 大正十五年
二百米リレー 一分五十三秒二 早大チーム（岡田、西オ、石毛、高石） 大正十五年
四百米リレー 四分二十五秒 早大チーム（岡田、西本、石毛、高石） 大正十四年
八百米リレー 九分三十八秒二 日本チーム（野田、佐田、新井、高石） 大正十五年

（女子之部）

五十米 三十五秒八 永井花子（京都武德會） 大正十二年
百米 一分二十四秒二 永井花子 大正十四年
二百米 三分十七秒五 入江廣子（京都武德會） 大正十三年
四百米 七分五秒二 入江廣子（京都武德會） 大正十五年
百米背泳 一分四十二秒六 入江廣子 大正十五年
二百米胸泳 三分四十三秒 飯村昌子（滿洲） 大正十五年
二百米リレー 二分三十二秒二 京都踏水會チーム（藤井、近藤、島村、永井） 大正十五年
四百米リレー 六分十三秒六 京都武德會（藤井、近藤、島村、永井） 大正十四年

明治神宮競技記錄

（男子之部）

五十米 二十六秒八 高石勝男（東京） 大正十四年
百米 一分三秒八 齋藤巍洋（東京） 大正十四年
二百米 二分二十八秒 佐竹孝（東京） 大正十四年
四百米 五分十二秒四 高石勝男（東京） 大正十四年
八百米 十二分三十秒六 兒玉博（東京） 大正十四年
千五百米 二十二分四十七秒六 新井信男（京都） 大正十二年
百米背泳 一分十八秒八 齋藤巍洋（東京） 大正十四年
二百米胸泳 三分十二秒八 鶴田義行（長崎） 大正十三年
二百米リレー 一分五十三秒八 稻泳會チーム（西本、小高、奥野、高石） 大正十四年
八百米リレー 十分十秒四 稻泳會チーム（石毛、佐竹、岡田、高石） 大正十四年

（女子之部）

五十米 三十五秒八 永井花子（京都） 大正十四年
百米 一分二十四秒八 永井花子（京都） 大正十四年
二百米 三分三十七秒二 宮崎百合（東京） 大正十五年
四百米 七分二十二秒六 駒澤つね子（大阪） 大正十五年
八百米 十五分五十九秒八 江島歌子（東京） 大正十五年
百米背泳 一分五十二秒五 月女年子（東京） 大正十五年
二百米胸泳 三分四十六秒六 布施苑子（京都） 大正十四年

昭和貳年壹月拾參日印刷
昭和貳年壹月拾六日發行

文檢體操科研究者の爲に
正價金壹圓八拾錢

著作者　小野角次郎

發行者　東京市神田區表神保町七番地　阪本眞三

印刷者　東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地　寺井藤左工門

印刷所　東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍

發行所　東京市神田區表神保町七番地　振替貯金口座東京八七貳番　大同館書店

不許複製

印	檢
大同館發行證	

◇渡部政盛監修・教育學術會著

文檢受驗用

學校管理法講義

（各學校必備書）（文檢受驗者必讀書）

（菊判最上製美本全壹冊四百餘頁　正價金參圓五拾錢　送料十八錢）

現在の教育法規を基として出來た最新の著述

本書の內容は最近現在の教育法規を基として作つたものである故に本書には彼の大學令も改正實業學校令も改正師範學校教育規程も新制盲啞教育令も本年四月公布になつた幼稚園令も改正小學校令も全部收載してをる外學校衞生規程までも全部收載してをる名實完備の學校管理法とは蓋し本書のことであらうと思ふ文檢受驗者教育科擔任者各學校當事者は一日も早く本書を備へて適法なる教育を施すべきである。

內容目次大要

第一編緒論……學校管理法の意義……學校管理法研究の必要……學校管理法と教育行政法……第二編教育制度論……總論……教育行政機關……第三編小學校……小學校教育に關する法令……小學校の本旨……小學校の設置……小學校の經費……小學校の教科編別……小學校の職員……小學校の事務……兒童の管理訓練……小學校の管理及監督……小學校の設備……第四編高等普通教育の學校……中學校……高等女學校……高等學校……第五編實業教育の學校……第六編專門教育の學校……第七編大學……師範教育の學校……師範教育に關する法令……師範教育の意義及目的……師範學校の組織及其他……臨時教員養成所……第九編幼稚園及特殊學校……幼稚園……盲學校及聾啞學校……第十編學校衞生……學校衞生概說……學校設備上の衞生……學校生活に關する衞生……學校兒童に關する衞生

東京市神田■大同館發行■表神保町七

◇渡部政盛監修・教育學術會著

（我出版界唯一の書）

文檢受驗用

教授學習法講義

（菊判最上製美本正價金五圓　送料廿七錢）

《各學校必備の參考書》《文檢受驗者の必讀書》

舊時代の教師中心の教授は、もういゝ加減棄らるべきである。そして新時代の教授法はまさに學習本位に組織せられなければならない。文檢に於ても、近頃は學習に關する問題や學習本位の教授法の問題が頻りに出る。而もこれに十分應答し得るやうな教授法の參考書は一冊もない。この缺を補ふ爲に叙述せるものが本書である故に教授法の試驗に合格し得るや否やは一にかゝつて本書を手にするかせぬかにあると云つても敢て過言でないと思ふ。內容は平易明快要領を盡くし各學校の參考書としても受驗の立場から見ても一も忽にする所のない良書である。

內容目次大要

第一篇教授法の發達……歐洲に於ける教授法の沿革……我が國に於ける教授法の沿革　第二篇教授の意義及目的……學習の概念……學習概念と教授概念……教授の意義及目的……第三篇教授の基礎……第四篇學習內態論（陶冶論）……第五篇教授の方法……教材とは何ぞや……教材の精選配當……各科學習の問題……學習指導上の問題……學習態度の養成……學習工夫の助成……教授（學習指導）の順序段階……知能相異論……個別教授問題……第六篇學習訓練論……學習訓練とは何ぞや……學習訓練の方法……第七篇學習經濟論……學習經濟とは何ぞや……學習經濟論……第八篇教授と疲勞及教授時間の問題……教授時間に關する問題……第九篇教授の成績……成績考査……成績考査の處理……第十篇教授の批評……教授の批評とは何ぞや……教授批評の方法

東京市神田■大同館發行■表神保町七

大關增次郎著 ●カント研究 全 金七圓八拾錢 送料三十六錢

野村隈畔著 ●ベルクソンと現代思潮 全 金貳圓五拾錢 送料十二錢

稻毛詛風著 ●改訂增補オイケンの哲學 全 金壹圓六拾錢 送料十二錢

稻毛詛風著 ●哲學教科書 全 金參圓八拾錢 送料十八錢

市川一郎譯 ●中等學校上級用哲學の一斑 基礎概念講義 全 金六圓八拾錢 送料二十七錢

市川一郎譯 ●高尚な理論を平易に講義せる哲學概論 全 金四圓八拾錢 送料十八錢

永野芳夫著 ●デューイ教育學說の研究 全 正價金貳圓 送料十二錢

永野芳夫著 ●デューイ論理學說の研究 全 正價金貳圓 送料十二錢

市川一郎著 ●教育の基礎たる哲學 全 金貳圓五拾錢 送料十二錢

市川一郎著 ●教育の基礎たる社會學 全 正價金貳圓 送料十二錢

東京市神田■大同館發行■表神保町七

【大同館發行圖書目錄】

宇野哲人著 **支那哲學史講話** 菊判最上製（參拾版） 金貳圓八拾錢 送料拾八錢

本書は上古より清末に至るまでの支那思想の大要を極めて平易に簡明に叙述して最もよく要說を盡くせるものなり從來世に行はれたる支那哲學史の缺陷は本書に依て補促せられて亦遺憾なし初學者にも專門家にも座右に缺くべからざる絕好の新著なり。

宇野哲人著 **支那哲學の研究** 四六判最上製（九版） 金貳圓八拾錢 送料拾八錢

本書は上は三代より下は近世に至り或は一代の思想を概論し或は特殊の問題を細敍し支那哲學に關する博士獨特の研究は殆んど此書に網羅せらる支那哲學史講話を讀んで略ゝ大意に通ずるものは更に此書に就て斯學の堂奧に參せよ。

紀平正美著 **自我論** 四六判最上製（貳拾版） 金貳圓參拾錢 送料十八錢

本書自我論一編は全く自分の觀念論の上に立脚して組織したるものである從て缺點も多からうと思ふが同時に又自分のものであるとの自信をも有つて居るのである前編「自我の分析」に於ては出來得る限りの分析を試みた後編人格の價値に於ては人格の意義と價値とを論理的に定めんと企てた。

紀平正美著 **改訂人格の力** 四六判最上製（八版） 金壹圓八拾錢 送料十八錢

本書は先に一度出版せられしものを「自我論」の出來たと同時に讀者の要求により著者が全部新しく改訂して發表せられしものである「自我論」を讀まれし人も又これから入つて「自我論」を讀まれる人も必ず併讀せねばならぬ重要な姉妹篇である。

大關增次郎著　**カント哲學批判**　四六判最上製（五版）　正價金貳圓　送料十二錢

カントより新理想主義へ、新理想主義からヘーゲルへの道を辿らうとする者は先づ近世哲學の權威フィッシャーのカント哲學批評を傾聽するの有意義たるは敢て賢言を要しないこれ眞摯なる士にすゝむる所以なり。

大關增次郎著　**カント研究**　菊判最上製（三版）　金七圓八拾錢　送料卅六錢

哲學研究者がカントへの隨一の手引書。近代思想のことゝくが或はカントを批判し或はカントを紹述しないものは無いのであるから近代思想を極めるものは必ずカントまでさかのぼらなければならない本書はその手引書である。

稻毛詛風著　**オイケンの哲學**　四六判最上製（十三版）　金壹圓六拾錢　送料十二錢

オイケンは現代思想界の明星也從つて苟くも思想界に關し精神事業に從事する者にして彼を知らぬ人は未だ到底哲學宗教道德教育文明歷史乃至生活を論する資格なし。現代生命に觸れ生き甲斐ある生活を生きんとする者は本書を讀め。

野村隈畔著　**ベルクソンと現代思潮**　四六判最上製（九版）　金貳圓五拾錢　送料十二錢

本書はベルクソンの思想を中心として現代の哲學及生活の梗概を述べたものであるだけに獨りベルクソン哲學の特色と價値とを學び得るのみならず弘く哲學的思想を解する上に於ても亦尠なからざる價値がある。

吉田紘二郎著　**タゴールの哲學と文藝**　四六判最上製（十六版）　金貳圓五拾錢　送料十八錢

タゴールは所謂近代文明に中毒した歐洲人から清涼劑緩和劑として歡迎せられた。漸く物質文明の弊に苦しみ且つ自我の目覺めに惱みを懷いて來かゝつた吾々青年にはたしかに伸びゝした心地よい感じを與へて與れる。

高橋敬視著　**西洋哲學史講義**　菊判最上製（新刊）　金參圓八拾錢　送料十八錢

哲學を知るにはどうしても哲學史を讀まなければならぬ。本書は古代哲學から最近のプラグマチズム、新實在論に至る迄を組織的に簡潔平明に初學の人にも容易に了解が出來る樣に叙述したるものである。

市川一郎譯　高尚なる理論を平易に講義せる　**哲學概論**　菊判最上製（新刊）　金四圓八十錢　送料十八錢

本書はフレッチア博士の原書を譯補せるもので內容は用語の簡潔にして平明なるは勿論吾々各自が日常屢々遭遇する所の經驗を例證として講述せる初學者には最もよい入門書である。

石川誠編　**現代文學新選**　四六判上製（三版）　金四圓八拾錢　送料十八錢

本書は現文壇の中心作家菊地寛・芥川龍之助・島崎藤村・田山花袋・北原白秋・有島武郎等十八氏の代表的作品長短綱約七拾篇を收めそれに頭註を施し各編毎に鑑賞的な著者獨特の批評を加へたるものである。

石川誠編　**現代詩歌新選**　四六判上製（新刊）　金貳圓八拾錢　送料十八錢

本書は現代詩歌を味はんとする者及一般文藝愛好者の爲めに趣味的に研究的にその鑑賞手引として出來たもの代表的詞人百拾餘名の歌詞句から精選し脚註を加へし現代詩歌壇の金字塔である。

古屋利之編　**現代田園文學新選**　四六判上製（新刊）　金貳圓五十錢　送料十八錢

田園は人類の心臟であり太陽である。靡爛しきつた現代人の思想と生活に新しい血をそゝぎ溫い光を與るものは其處に育まれた田園文學を措いて他にないと信ずる本書はこの意味に於て現代人の渴望を慰するに足る絕好の讀物であらう

小林　好日著

新體國語法精說

菊判　最上製（三版）　金貳圓八拾錢　送料十八錢

本書は一名標準語法精說と云ふ文檢受驗者が日本文法研究上必要缺くべからざる參考書である內容は最も進歩したる科學的方法の下に試みられた我現代語の研究書であり文語から口語に至る歷史的變遷を顧みられた比較對照語法である。天下の標準語問題を取扱つたものゝ少い今日に於て國語問題に思を潛める者は必ず一通讀しなければならぬ。

吉波　彥作著

漢文（白文訓讀／復文作文／支那時文）研究要訣

四六判　最上製（三版）　正價金參圓　送料十八錢

文檢國語漢文科受驗の秘鍵を握つて一躍難關通過の榮冠を獲んとするの諸彥は先づ本書を看よ。本書は著者が多年の經驗と豐富な材料とを以て新に受驗者に提供せる他に絕對に類書のない要訣である。第一篇は白文訓讀を第二篇には復文作文を第三篇は支那時文を解釋したる國漢文受驗者には最新の捷經である。

植松　安著

改訂古事記新釋

四六判　最上製（拾參版）　金貳圓五拾錢　送料十八錢

難解なる古文を最も平易なる假名交り文に書き下し振假名を附し詳細なる語義と其索引を添ふ。著者が國民心理を基礎として神代と上古との風俗人情に下したる評論的文章は各段章に亙はれ大和民族發展の由來を明にし國民歸嚮の中心を開く是れ本書の特長なり世界の日本東洋の日本我等の日本これをこの書に得よ。

植松　安著

紀記の歌の新釋

四六版　最上製（三版）　正價金貳圓　送料十八錢

古典の國民化これは私の大に望む所であつて先に「古事記新釋」を著けしたが今又こゝに紀の歌のみに就いて書いて見た。古事記は文學日本書紀は歷史といふ著者の見方である本書にはもとより新論とては無いが只現代の一般人士が讀むには便宜であると思ふ。

小林　榮子著

源氏物語活釋　前編

四六判　全壹册（三版）　金四圓八十錢　送料十八錢

小林　榮子著

源氏物語活釋　後編

四六判　全壹册（三版）　金四圓八拾錢　送料十八錢

全編漢字をあてゝ講義に代へ頭註精を極め粹を拔く共に又中古國語辭典を座右に備ふるの效果を收め得べし加之本書の一大異彩として著者研鑽の餘「紫式部の源氏物語は雲隱までなり」との斷案を下したる事と紫式部日記秒錄講義によりて式部が優々たる公子貴女を靜觀せるさまの厚如たるを見るべし本書は初めて古文に忘す人にも直ちに堂奧の源氏物語を玩味する事を得べき國民必讀の良書也

小林　榮子著

頭註　大鏡活釋

四六判　最上製（三版）　金貳圓五拾錢　送料十八錢

四鏡中も最も重要なる大鏡は藤原氏の榮華と時代相を描いた史的にも文學的にも貴重なる書である本書は著者が難解な文章を流通無礙の筆を以て何人にも了得し得る樣活釋した所現代女流國文學者中の才人であると云はねばならぬ。

石川　誠著

新撰徒然草講義

四六版　最上製（新刊）　金貳圓五拾錢　送料十八錢

本書は徒然草を三部に分ち前編には受驗に尤も必要な又徒然草の本質を直ちに了解し得る段を收めて詳解したこれは受驗必讀の篇であり本書の眼目である中篇後篇には受本位として繁簡中庸殘りの全部を收めて詳解したものである類書中の白眉の書としてすゝむ味に文檢と高等學校入學準備としては最適の書である

尾上登良子著　頭註

源氏物語大意

四六判　最上製（八版）　正價金參圓　送料十八錢

本書は大意とは云へ文情詞勢語氣なども原本の儘を傳へんと苦心したるものなりされば本書一卷の通讀は原本を讀むに異らざる效果あり卷頭に挿入したる系圖並に年表は本書の參考としては勿論其他一般の源氏物語を研究する人にも唯一の極めて有益のものである。文檢受驗者國文研究者必讀の良書也。

宇野哲人著 **四書講義大學** 菊判最上製（拾參版） 金貳圓參拾錢 送料十八錢

儒教の目的は大學に備はり、儒教の根本義は中庸に明かである。かくて學庸の二書は經となり緯となり。互に相待つて儒教の眞相を傳ふ。著者は如上の見解を以て先に大學講義を著はし今亦中庸講義を著はす。大學に由て既に儒教の目的を明かにせる大方の士は請ふ更に中庸に就いて儒教哲理の眞面目を了せよ。尙附錄數篇は皆直接間接に大學中庸の意義を明かにするものである。

宇野哲人著 **四書講義中庸** 菊判最上製（拾四版） 金貳圓八拾錢 送料十八錢

龍澤良芳著 文檢受驗用 **左傳選釋** 菊判最上製（新刊） 金參圓八拾錢 送料十八錢

支那古典中最も難解を以て目せられる左傳は文檢受驗の際の必讀書である本書內容は讀方講義解釋參考の四欄に分ちて丁寧親切に叙述せる文檢受驗には本書一册で他に必要なしと言ふまでにした他に絕對に類書の無い好參考書也。

教育學術會編纂 文檢受驗用 **論語思想解義** 四六判最上製（四版） 金貳圓八拾錢 送料十八錢

本書內容は（一）解說（二）字句講義（三）思想研究の三篇に分ちて叙述し最後に論語思想を現代の思想の上から縱橫に批評を試みた文檢修身・漢文教育科受驗者の是非熟讀すべき良書也。本書は實經驗に鑑み本文を特に白文とせり。

教育學術會編纂 文檢受驗用 **四書研究** 四六判最上製（五版） 正價金貳圓 送料十二錢

本書は文檢受驗者の爲めに從來の四書研究難を救はんとして著はされしものである四書の思想的研究は我國に於ても支那に於ても本書がその最初のものであれば從來の文學の上の研究に飽きて居る一般の人は本書に依て味ふがよい。

栗原寅次郎著 **大日本地理精說** 上卷 菊判最上製（八版） 金五圓八拾錢 送料廿七錢

栗原寅治郎著 **大日本地理精說** 下卷 菊判最上製（七版） 金五圓八拾錢 送料廿七錢

日本地理教授の目的は專ら本邦國勢の現狀を詳かにして愛國心に基づく有爲の國民的活動に導く事にある。本書は著者年來の經驗に則つて特に最新の材料を蒐集選擇し帝國の國勢を形成せる自然並びに人文の兩方面に亘る各般の事情に就て懇切叮嚀に叙述を加へられたる、眞に是れ斯界の權威たるべき良書である。本書の特色は材料の嚴選と其の具體化・學習的興味の喚起・統計の正鴻と記述の懇切等である。

三村信男著 **地理學習便覽** 袖珍判最上製（三版） 金壹圓貳拾錢 送料十二錢

世界的知識を得るには地理を修める必要があり世界的日本を知る爲には地理科は最も適せる教科である本書は此の意味に於て技業に亘るを避け稍學術的に一般地理學的現象を解說せるもので深き理法を解し研究の指針となる書也。

栗原寅治郎著 **大日本國勢地理** 菊判最上製（新刊） 金參圓八拾錢 送料十八錢

本書は我が國土の自然と人文に亘る各般の實情を精査探求し特に平易を旨として記述されたるものにして一般地理教授上の好參考書たるは勿論更に全國民の必讀すべき近來の快著である敢て世の憂國の士に薦む。

栗原寅治郎著 **鄕土地理の研究** 菊判最上製（五版） 正價金貳圓 送料十八錢

鄕土は世界の縮圖なりで窓外に一歩を出ずれば四近の山嶽河川原野等採つて以て本科學習の基礎をなすべき好教材を網羅せるに於てをや本書は特に之が教授の方法を說示する等懇切叮嚀を極む眞摯なる研究家必讀の書也。

●●新定國史教授用參考書として最も完備せる書●●

京都府女子師範學校教諭 徳重淺吉 同訓導 吉良佐太郎
京都府女子師範學校訓導 松本正男 同訓導 内藤孫一共著

東京神田 大同館 發行

史眼養成 國史教授の原理及實際

菊判最上製美本 五學年用(上卷)正價金參圓五拾錢送料十二錢
全貳册千二百頁 六學年用(下卷)正價金四圓五拾錢送料十八錢

近世日本の教科的新解釋
國民思想養成の鐵案
世の移り行く道理の究明
史眼養成の眞教授法

斯に本書上卷を出して世に問ふや教授參考書中の白眉として多大の推賞を蒙りしが爾來著者思を潛むること正に一年惨憺の苦心を嘗めてこゝに年來の蘊蓄を傾盡せるもの即ち本書下卷なり。而して今回は精到適確なる解說に加ふるに卓拔清新なる批判を各項に設けて教授の徹底を計り教材も教科書以外に皇太子殿下の摂政なる一章を加へて英皇儲御來朝迄の最近の事歴を迄へ終りに國史教授の基本問題史眼養成の方策等荷も現代國史教授界に於ける重要なる諸問題には觸れざるなく上卷と相俟つて其の完璧を期せり。敢へて世の眞理を熟愛する教育家に一本を勧む。

拾版

石田 吉貞著 **太平記新釋** 四六判最上製(三版) 金貳圓五拾錢 送料十八錢

本書は太平記の重要個所のすべてをぬきこれに詳解を試みたものである一般の讀物としてもよく殊に受驗者にとつては最も必要にして且つ充分なる書として敢て推薦する。

福永 弘志著 **竹取物語新釋** 四六判最上製(新刊) 金壹圓參拾錢 送料十二錢

本書は「かくや姫」の戀物語を書いたものであるが我邦の小說童話の源泉とも云ふべきもの文學に志す人國文研究者の一度は味はねばならぬ書である本書には註解の外口語譯も添へたり。

石田 吉貞著 **國文法の解義と練習** 四六判最上製(三版) 正價金貳圓 送料十二錢

應用問題のみ出る文法に練習題を多くした參考書は出なかつたのは確に一大缺陷であつた本書は此見地から解義は穩健と簡潔と獨習者に對する親切とを主とし練習題は出來るだけ多くして一々解答をつけたるもの實力を養はうとする人の必讀書である。

龍澤 良芳著 文檢受驗用 **源氏物語新釋** 菊判最上製(新刊) 金六圓八拾錢 送料廿七錢

本書は文檢研究者の爲めに出來たもので、内容は桐壺から明石までを親切叮寧に詳解しそれ以下の梗概を書きしものである之れを精讀せば詳細に源氏を理解し得。研究者の見のがせぬ必讀書である。

奈良島知堂著 **少年忠臣藏** 四六判上製(新刊) 正價金貳圓 送料十二錢

四十七士の義舉は物慾と享樂に耽つてゐた元祿時代の生んだ一の驚異である本書は之れが事實に即し然も津々たる面白味も加へて一舉の顚末義士の心事を平易に叙述したものである。

甲斐　一二著　文檢受驗用

新教育說撮要

四六判　最上製（新刊）　正價金貳圓　送料十二錢

本書は最近東西洋新教育說の要點を簡明に叙述し說明し批判せるものである啻に文檢受驗者のみならず教育上の新學說の研究に志ある人に取りては實に唯一無二の好資料たる良書である。

渡部政盛監修　教育學術會著　文檢受驗用

教授學習法講義

菊判　最上製（再版）　正價金五圓　送料廿八錢

文檢に於ては近頃學習に關する問題や學習本位の教授法の問題が頻りに出る而もこれに十分應答し得るものはない本書は之等教授法研究者の爲めに叙述せるものであつて內容は平易明快要領よく而も受驗の立場から見て一も忽せにする所のない完備せる書である。

三浦　藤作著

國民道德要領講義

菊判　最上製（新刊）　金貳圓八拾錢　送料十八錢

本書は文檢受驗者又は教育學倫理學研究者のために執筆せるものである特色とする所は（一）最新の思潮と研究の結果とを汲みたる事（二）最も組織的系統的に叙述したる事（三）文章が極めて平易流暢たる事等である國民道德・教育大意の教科書としても參考書としても絕好の良書なることを斷言す。

三浦　藤作著

教育大意講義

附教育史大意　菊判　最上製（新刊）　正價金參圓　送料十八錢

渡部　政盛著

文檢（日本東洋西洋）教育史

菊判　最上製（六版）　金六圓八拾錢　送料廿七錢

本書は日本東洋西洋とも古代より現今に至るまでの史實を全部網羅したるもので內容は系統的にして簡單明瞭ならん事に努めたる外文檢受驗者に取りて隨一の教育史研究用書である本書一冊で十分合格し得る事云ふまでもなし。

一條　忠衛著

社會道德論

四六判　上製（再版）　金參圓五拾錢　送料十八錢

社會道德なる語は誰でも知つて居るが之を組織的に說明した本は未だ嘗て世界に一冊も無かつた現代社會の暗黑面は全く社會道德の頹廢した結果である之を挽回して向上發達させる事は社會改造の最大なる問題であり世界人類の究極目的である。本書は之を警告した學者の先見であり豫言者の聲である近世稀なる名著であり萬人必讀の世界的經典である。

大久保　龍著

戲曲人としてのペスタロッチ

四六判　最上製（新刊）　金貳圓八拾錢　送料十八錢

ペスタロッチーは世の人々が皆水平線上の歡樂を追ふて疲れてゐる時靜に水平線下に無限の靈池をみつめて安じきつて汲んでゐた。彼の八十二年の生涯はかく世の下層不遇の境地に泣く人々の救ひの友として捧げつくして毛筋ほども自己中心的のところがないのである百年後の今日なは彼を禮讚湯仰措くところなきは誠にうべである。本書は彼の全生涯を五篇に脚色せるもの涙なくしてはゐられぬ近來の好著である。

市川　一郎
小關　愛村　著

ペスタロッチ全集

四六判　最上製（四版）　金貳圓五拾錢　送料十八錢

深遠なる創造的思想と博大なる殉教的活動とは現今愈々其價値を發揮し來り新カント派教育學者の眞劍なるペスタロッチ研究さへ起るに至つた。卑くも教育に從事する者にして彼を知らざれば共に談ずるに足らない。本書は雅馴平明の文で懇切にペスタロッチの全生涯を陳へ且著名なる彼の著述全部を譯述して居る蓋し彼の全部を知るには最も懇切の良書である時恰も彼の百年祭に當る今日熱烈至誠なる教育者の淸覽を望むものである。

志垣寛
新井順一郎 著

現代を基調とせる 高一の國史教授

菊判 最上製 (新刊) 金四圓五拾錢 送料廿七錢

歴史は現代の「我」を學ぶための教科である。歴史研究の對象は單なる表面的史實ではなくて史實の底を流る國民精神その物であるかうした見解が高一の國史に試みられた物即ち本書である内容は各所に新機軸を出したる眞に國史教授界の先驅を成すものである。

濱田壽郎 著 尋常小學

國史學習問題と解答

四六判 最上製 (新刊) 金壹圓貳拾錢 送料十二錢

本書は著者が兒童愛の精神から國史をよりよく學習せしめんがために國史教科書の各種にわたり重要事項を選びて作りたる問題である教師が之を扱へば注入主義の教授に陷らず眞に國史の本質より導かるる學習を指導し得らるる事と信ずる。

伊藤勇太郎 著

最新英語獨習講義

四六判 最上製 (三版) 金貳圓五拾錢 送料十八錢

本書は英語を毫しも知らない人の爲に初學者の希望と心理とを知り抜いた著者が最も解り易く覺え易い方法と痒い所に手の達く懇切と一度讀出したり已められぬ面白味とを以て書かれたものである。必ずや天下幾萬の獨學者と中學生諸君との渇仰の的となるに相違ありません。

甲斐一二 著

修身教育主要學說辭典

四六判 最上製 (新刊) 金參圓六拾錢 送料十八錢

本書は修身・教育兩科の研究に志す人が研鑽の佞所要題目の要點を敏速に把捉せらるるの便に供せんが爲めに編纂したるものであるその記載の題目は修身教育の各分科・教育史・心理學・論理學・教授法・管理法・哲學・社會學・文藝の各方面にも及び特に最近の思潮に鑑み努めて新題目を逸せざらんことに努力したりそして索引は五十音順に排列し字音假名遣法を用ひたり。

小堺宇市 著 文檢受驗用

圖畫科研究者の爲に

四六判 上製 (新刊) 金貳圓五拾錢 送料十八錢

文檢圖畫科研究者の爲めの著書極めて少し之あるとするも全的に系統立てたる書籍は未だ見ぬ所である著者特に此の點を考慮して他に類を見ざる親切を盡くす。受驗者は本書によつて合格を期せられよ受驗せる人も教授參考に必讀あらん事をすゝむ。

笠井義夫 著 文檢受驗用

習字科研究者の爲に

四六判 上製 (三版) 金貳圓五拾錢 送料十八錢

文檢の他學科にあつては參考書を多く目にするが習字科は不幸にして水先案内となるべき有力なものあるを聞かない本書は之れら受驗者の爲めに研究の方法古法帖の學ぶべき程度設問の解答等の諸問題につき明快に要決をしめせるものである。

吉本俊二 著 文檢受驗用

法制經濟研究者の爲に

四六判 上製 (新刊) 正價金貳圓 送料十二錢

吉本俊二 著 文檢受驗用

法制經濟問題詳解

四六判 上製 (三版) 正價金貳圓 送料十二錢

本書は專ら文檢法制經濟科受驗者の爲めに編述せるものである内容は委員や學者の理健中心なる學說を縱とし最近十數年間の豫備本試驗問題全部に涉り詳解し受驗者の爲めに唯一の指針たる事を期したるものである。

伊藤勇太郎 著 文檢受驗用

英語科研究者の爲に

四六判 上製 (七版) 正價金貳圓 送料十二錢

本書は文檢の勉强方針を嶄新なる所說を以て平易に溢るるが如き熱誠を以て叙述せるものである一般英文學研究者高等學校學生の讀物として無限の興趣卷を措く能はざらしむ。

鈴木忠康著

博物通論 豫想問題と其答解

四六判 洋裝 (九版) 正價參拾五錢 送料四錢

最近入學試驗に博物通論を課せらるるがこの方面の參考書が絶無で學生の困つて居る狀態に同情し著者が多年の經驗によつて重要問題五拾題を選びそれに簡明適確なる解答を附したるものである受驗者は即刻一讀せよ文檢受驗者も研究上必讀のものである。本書中より十五年度の問題は全部合格してゐる。

平松菊郎著 受驗參考

模範動物學詳解

四六判 上製 (新刊) 金貳圓八拾錢 送料十八錢

本書內容は中等諸學校用動物學教科書を基本として複雜なる事項をよく整理し極めて記憶し易き樣に作られたり而して記述の順序は高等動物より下等動物に至り最後に動物學通論に及ぼしたるもの類書中他に比類なき眞に「模範」たる參考書である。內容充實せる眞に有益の良書である。

宗敬著

分類的算術解法の研究

四六判 上製 (三版) 金壹圓六拾錢 送料十八錢

本書の特色は標準となるべき目拔の問題を精選して問題の考へ方解き方を分類的に一々例解し特に圖解の仕方に主力を注ぎたる點と如何なる試驗問題でも面白くすら〳〵解ける樣な自發的學び方の結晶が各頁に躍如として現はれて居る點等である。受驗者必讀の指南書定評ある名著である。

宗敬著 受驗參考

幾何學自發的學び方

四六判 上製 (新刊) 金貳圓五拾錢 送料十八錢

本書は幾何學の如何なる試驗問題が出ても面白くすら〳〵と解ける樣な自發的學び方想像力工夫力創作能力養成に努力したる點とそれらの結晶が各頁に躍如として織込れたる點等である。

仲原善忠著

理法探究 日本地理原論及細說

菊判 最上製 (三版) 金五圓八拾錢 送料廿七錢

今までの地理學教授は可成無味乾燥なもので地理學それ自身のもつ興味は大なるにもかゝわらず學生の心は餘りそれに向けられてゐなかつた本書は全然新しい試みをなしたもので我國を一の單位として地形氣候產業都市等の各項を特色づけて叙述してゐる人と地に關する因果關係等を明かにし學生の自發的研究心と興味とを刺戟する事につとめてゐる誠に農業の部を繙いてみるとわれ〳〵は我國の農業の概略農村疲弊の因農村問題の起因等まで知ることが出來る新方面を開かうとする著者の努力は尊い。——《東京日日新聞批評》——

三村信男著

地理學通論 地文學の部

菊判 最上製 (三版) 金六圓八拾錢 送料廿七錢

三村信男著

地理學通論 人文學の部

菊判 最上製 (三版) 金六圓八拾錢 送料廿七錢

地理學は其の範圍頗る廣く之が研究に多大の不便と苦痛を感ずるものであるしかして其の理由の一として綜合された地理學の良書のない事であるが著者はこゝに思ふ所ありて各種學校の地理教授者には勿論文檢受驗者の爲に僅の努力にて多大の習得を目的として最新の學說に基述されたのが即ち本書である本書は地文及人文地理事項を細大漏さず之を詳細し百數十個の挿畫によりて內容を明かにし且つ終りには詳細なる索引を附し之を利用する時は本書は實に地理學の寶典となるものである。

栗原寅治郎著

日本產業地理精說

菊判 最上製 (五版) 正價金四圓 送料十八錢

本書は我國の重要產業に就て古來發達の過程を明かにし內地及新領土に於ける斯業伸展の現勢を詳述し最新の材料に基きて記述平易懇切を極め誠に時局に適する良書たるを確信す

稲毛詛風著

哲學入門

四六判最上製（六版）金壹圓六拾錢 送料十二錢

深遠複雜な哲學を極めて簡明に叙述し何人にも一讀直ちに哲學の一斑を理解し得るやうに叙述せる絶好の哲學入門書である哲學を研究せんとするものは最初に本書に就け。

市川一郎譯著

中等學校上級用 哲學の基礎概念講義

菊判最上製（新刊）金五圓八拾錢 送料廿七錢

本書内容は第一篇に於ては哲學の本質を概説して讀者既習の科學的知識は哲學を學んで始めて完了せらるゝ所以を敎へ以下篇を分つこと九篇廿八章＝心理學・論理學・美學・倫理學・認識論・宇宙論・哲學的心理學・宗敎哲學・本體論等所謂廣狹兩義の哲學の諸分科を一も漏すこと無く講述す實に是れ内容形式共に完備せる知的中等國民必讀の書として江湖にすゝむ。東京日々曰く一冊で哲學の綜合講座をなしたものであると。

市川一郎譯著

教育の基礎たる哲學

四六判最上製（拾九版）金貳圓五拾錢 送料十八錢

哲學は難くして常人不可解のものなりと思ふ人多きは從來公にせられたる哲學書の罪である本書は哲學の素養皆無なる人士と雖も易々として現代哲學の概觀を捕捉し得る書である。

市川一郎譯著

教育の基礎たる社會學

四六判最上製（三版）正價金貳圓 送料十二錢

過去の因襲敎育が心理學に依て改造せられたるが如く行詰れる現代の敎育は是非とも社會學に依て改造されなければならない實に本書の説く廣大にして根本的なる敎育説は此の行詰れる今日の敎育を廣濶清朗なる曠野に誘導する也。

◇明治敎育社編纂◇

發兌 東京市神田區表神保町七 大同館書店

文檢受驗用

國民道德要領

（卅壹版）四六判最上製美本 金貳圓五拾錢 送料十八錢

文檢受驗用

敎育大意

（拾七版）四六判最上製美本 金貳圓五拾錢 送料十八錢

本書は國民道德要領敎育大意は姉妹篇で共に絶大の好評を博しつゝあり内容特色は合格者の經驗を基礎として編纂した る事、そして受驗者に都合よき樣に記述したる外試驗委員の説を隨所に掲げたる事、問題解答を提げ類似問題を多く載せたる事、文章の平易なる事等にあり、されば文檢の受驗者たるものは勿論各府縣の小學校敎員檢定試驗者にとりて無二の好參考書たる事は弊館の自信を以て推奨せる所以なり。

敎育學術會著

文檢受驗用 敎育勅語戊申詔書解義

（拾版）正價金貳圓 送料十二錢

石川鼓著

文檢 國語科研究者の爲に

（拾貳版）金貳圓八拾錢 送料十八錢

石川鼓著

文檢 漢文科研究者の爲に

（拾貳版）正價金參圓 送料十八錢

伊東勇太郎著

文檢 英語科研究者の爲に

（五版）正價金貳圓 送料十八錢

敎育學術會著

文檢 國民道德敎育大意問題解答

（五版）金壹圓八拾錢 送料十二錢

中等學校教授用資料と檢定受驗用とを兼備せる唯一の西洋史參考書

◇小林博氏新著（多年苦心の大著愈完成發賣）

文部省檢定受驗用 西洋通史

（菊判最上製美本 全二冊箱入千五百頁）

（上卷）正價金六圓八拾錢 送料廿七錢
（下卷）正價金四圓八拾錢 送料十八錢

東京神田 大同館 發行

●●●《文檢西洋史受驗者必讀書》●●●

〔本書の特色〕

（一）教授用の便　文部省教授細目と其作・村川・瀬川・大類・磯田・齋藤・清・峰岸・齋藤一の各博士教授の著せる中等學校西洋史教科書を參酌し其項目の敷衍につとめ且說話筆記等の取扱にも苦心した。

（二）受驗の實經驗　文檢受驗は著者の苦き實驗經驗に鑑み選擇配列に頗る苦心して表解圖點を施し極めて多き參考史話を載せ其の興味を以て讀者の倦怠を防ぎたり。故に本書は項目體にして見易く時間を省き圖裡に千萬の史實を牢記せしむるは信じて疑はず。

（三）記事の詳密　著者は多年の西洋史研究と共に繙譯ン王の事蹟よりドース案日露交渉の最近に及び繁簡の要を得たれども尙記事頗る詳密にして多大の頁を費し從來の文檢問題の如きは自ら悉く織込まれたり。

（四）文檢問題解答　本書は卷末に索引を附して讀者研究の便を計り既往の文檢問題は四十一回迄列記し一々之に解答を附したり。

◇醫學士 井上金輔・奧山擣太郎・木山淳一・額田勇共著◇

生理衞生教授の理論及實際

（菊判最上製美本 全壹冊四百頁）正價金四圓（送料金十八錢）

（好評五版）新文化の建設に當り國民の體育を振起し改革の必要なるは示明の事なり、而して學校衞生學も近來勃興して教授衞生の學日々に喧しく然るに我が普通教育の實際を見るに之が根柢たるべき生理衞生の教授正鵠を得ず從つて兒童生徒は自らの衞生に盲者の如し著者これを遺憾として本書を公にす、本書を用ゐば兒童生徒は趣味津々の中に生理衞生の知識並に實行法を會得するは期して待つに似たり。今更躊躇するは愚、勝ひて教授に試む者賢と示ふべし。

◇桐生高等工業學校教授 島田慶一氏著

家庭科學 日常飲食物の知識

（四六判最上製 全壹冊三百頁）正價金貳圓（送料金十二錢）

（好評五版）本書は吾人が日常一日も缺くべからざる重要なる食料品の全般に亘つて其由來・沿革・原料・製造法・營養價値・貯藏法・鑑定までも平易に簡明に何人にも了解し得る樣講話せるものにして發行以來絶大の好評を博し版を重ねる事數回更に增加す。一般家庭は勿論各學校の家事科理科の教育參考書としても好適のものなり。

發兌 東京市神田區表神保町七 大同館書店

◇渡部政盛氏新著《隨一の民衆哲學辭書提供》

六版

最新哲學辭典

菊判最上製美本
全壹册背皮箱入
金五圓八拾錢
送料廿七錢

《本書の特長》（一）現代文化民衆の哲學慾を充すを目的として編纂したる事（二）文章平易記述簡宜しきを得て一讀直ちに其要點を捕捉し得る事（三）內容は哲學概論・東洋西洋哲學史・倫理學・東洋西洋倫理學史・論理學・美學・宗教・社會學・經濟哲學は勿論・生物學・心理學・哲學藝術上の最近思潮特に現代哲學の記述に萬遺憾なからん事を期す（四）所謂廣義の哲學以外現代の文學藝術社會問題經濟問題政治問題婦人問題等にも亘りたる事（五）學生及文檢受驗者の便を計り史上の問題を詳述したる事（六）文化生活への奉仕として正價を最低至廉ならしめ其の普及を圖つた事等である要するに本書は現代人に缺く可らざる哲學の鳥瞰圖ともいふべき書也

◇東京豐島師範學校教諭　栗原寅治郎著《好評激甚增版出來》

拾壹版

改造

世界地理精說

菊判最上製美本
全壹册七百頁
金五圓八拾錢
送料廿七錢

本書內容は材料選擇に當りて特に我國との關係的方面を重視し世界の大勢に通ずると共に直ちに彼我剝下の形勢を理解をしめ今後の國民として國家的生活を營むに十分なる資料を自然人文の兩方面より精査して集むるに努めたり要するに世界地理參考書として現代では本書を以て第一なりと大なる自信を以て推奬する所以なり。

發兌　東京市神田區表神保町七番地　大同館書店

中澤美治著

活動寫眞と教育

四六判
最上製
（新刊）
正價金貳圓
送料十二錢

本書は活動寫眞と教育との關係について其相互の根本的原理價値應用から學校教育社會教育上の實際的方策等に亘り具體的に詳細に論述したるもので教育者及識者必讀の良書なり。

中村古峽著

變態心理の研究

四六判
最上製
（九版）
金貳圓五拾錢
送料十八錢

本書は變態心理を飽くまで學術的に且つ通俗的に說明したる我學界唯一の新著にして特に世上の山師が心靈を名として諸種の騙着手段を行へることを素破抜きたる一章は最も痛快を極む。

羽太鋭治著

性慾教育の研究

四六判
最上製
（拾參版）
正價金參圓
送料十八錢

本書の內容目次を揭ぐれば……少年に性的知識の開發を必要とする理由……性慾教育の當事者……性慾教育の範圍並に方法……兩性に分かるゝ原因……性的機關と性慾……生殖器の構造及異常……男子生殖器……女子生殖器……兒童の性的特質……性的現象……病的性的現象……等細目を分ちて詳細に叙述せるものである。

宮本幸惠著

行詰った現代の圖畫教育

四六判
最上製
（新刊）
金貳圓參拾錢
送料十八錢

現代の圖畫教育の現實と理想とを詳細に考察し解決して兩者の折衷卽ち現實的理想主義を提唱したものである。圖畫教育に從事する人々必讀書である。著者は美術學校出で實際教育に從事せる新進の學者である。

宮本幸惠著

彩色の研究と其取扱法

四六判
最上製
（三版）
金參圓八拾錢
送料十八錢

美麗なる石版廿五度刷の色圖十六葉。調和表實驗圖解は如何なる素人と雖も一見して彩色のグランマーを會得し衣食住或は眞善美の各方面に容易く結着ける事が出來る。大好評を博して各方面に歡迎せるものである。

◇小學校・中學校・女學校用趣味の課外讀本出來!!

最新刊

和歌・俳句・自習讀本

◇森山右一氏新著　四六判最上製　正價金貳圓　送料十八錢

本書は「和歌が作つてみたい」「俳句はどうして作れるだらうか」といふ小學生の爲めと「和歌俳句を研究したい」と望む中學生女學生の親切な入門書として生れたものである。特色とする所は綴方の藝術化＝和歌俳句の導入＝に資すべく圖れると「作り方」の篇に例歌例句を多く挿入せると「註釋」の篇に新しき歌句數百首を選載せる事である。行文平淡にして水の如く歌句優雅にして花の如く讀去り讀來れば初歩者には無二の指導たるへくすでに入れる者には必ずや詩心のとみにゆたけく伸び行くを覺えるに至るであらう。敢て一本を大方の前にすすむ。

内容目次

《上編和歌の部》……子供の和歌……自分の實感……動の歌と靜の歌……景の歌と心の歌　プロットとローカルカラー……倒置法と反覆法……「なるほど」歌と「さうですか」歌……和歌の日記……和歌と旅行……和歌のうつりかわり……少年歌ことば……和歌評釋……古歌百首

《下編俳句の部》……子供の俳句……季節と切字……少年歳事記……客觀句と主觀句……ポイントと餘情……配合法と擬人法……「しまつた」句と「ゆるんだ句」……日記と俳句……旅行と俳句……俳句うつりかはり……子供俳句かるた……俳句評解……古句百吟……

東京市神田區表神保町七　大同館發行　振替貯金口座東京八七貳番

守屋貫秀著●少年曾我物語　四六判最上製　金壹圓八拾錢　送料十八錢

奈良島知堂著●少年忠臣藏　四六判最上製　正價金貳圓　送料十八錢

守屋貫秀・山口友古著●少年國史辭典　四六判最上製　正價金貳圓　送料十八錢

尾上登良子著●源氏物語大意　四六判最上製　正價金參圓　送料十八錢

福永弘志著●竹取物語新釋　四六判最上製　金壹圓參拾錢　送料十二錢

守屋貫秀・新井庄太郎著●少年九郎判官義經　上卷　四六判最上製　金貳圓五拾錢　送料十八錢

守屋貫秀・新井庄太郎著●少年九郎判官義經　下卷　四六判最上製　正價金貳圓　送料十八錢

守屋貫秀著●綴方學習の泉　四六判最上製　正價金貳圓　送料十八錢

福田正夫・井上康文著●童謠・民謠・詩傑作選集　袖珍最上製　金壹圓八拾錢　送料十八錢

濱田壽郎著●尋常國史學習問題と解答　四六判最上製　金壹圓貳拾錢　送料十二錢

東京市神田■大同館發行■表神保町七

我が初等教育界への一大貢献!!

◇東京女子師範學校附屬小學校訓導 守屋貫秀・山口友吉・久米慧典共著◇

（東京神田 大同館 發行）

新刊發賣

少年國史辭典

四六判最上製美本 全壹冊四百餘頁 正價金貳圓 送料十二錢

少年少女のための國史辭典出來!! 自學自習隨一の指針

少年少女諸君が國史即ち國發展の事蹟を眞に自ら學ばうとするにはどうしても完備せる兒童用國史辭典が必要である。本書内容は五十音別にして國史教科書中の事實を大小漏なく解說せる外各教科に於ける史實を解明し尙御歷代表系圖・年表を附せる等眞に至れり盡せりの良書である。今や自學中心主義の教育は燎原の火の如く全國を風靡し然も教育者のみが參考書の不備を惜しく遺憾とせらるゝ時に際し我が勉學に熱誠なる少年少女諸君を初め各學校及一般圖書館の必備品たる本書を提供し得るは大に弊館の誇とする所である。

福田正夫 井上康文 著 ●童謠・民謠・詩傑作選集（拾版） 袖珍判最上製 金壹圓八拾錢 送料十二錢

前田德一著 ●少年の思想と生活（新刊） 袖珍判最上製 金壹圓八拾錢 送料十二錢

大久保龍著 ●白ばら公子（少年少女の小說）（新刊） 四六判最上製 金壹圓八拾錢 送料十二錢

東京帝國大學文學部助教授文學士 植松安著 —《類書中の白眉》—

七版

古事記新釋

四六判最上製美本 全一冊五百餘頁 正價貳圓五拾錢 送料十八錢

著者はこの古事記を說くに當つて神代の巻に最も力を注いだ事を一言して置く。索引については單語の解說を見出し得るのみならず古事記本文の要項を探り得るから目錄の代用となる——●難解なる古文を最も平易なる假名交り文に書下し振假名を附し詳細なる語義と共索引を添ふ。著者が國民心理を基礎として神代と上古との風俗人情に下したる評論的文章は各段章に顯はれて大和民族發展の由來を明にし國民歸嚮の中心を說く是れ本書の特長なり。今や大戰後世界思想の急激なる變動は將に我國民思想に及ばんとす世界の日本東洋の日本我等の日本これをこの事に得よ。

東京帝國大學文學部助教授文學士 植松安新著

註釋 假名の日本書紀

再版

（四六判最上製美本全貳冊 紙數壹千參百餘頁箱入）

（上巻）金參圓五拾錢 （下巻）金參圓八拾錢 送料各廿錢

日本書紀の一體に假名日本書紀といふものゝ存する事は從來一部の學者に知られて居たが未だ普く其存在を知る人が尠い。本書は著者が出來るだけの手を盡して調べ得た廿餘種の異本を參照して著述したものである。内容は本文を漢字交りに書下し漢字に振假名を附し假名に漢字を當て一段毎に簡明なる註解を加へ索引として辨ずべき詳細なる目錄を添ふ。我國體の淵源を知り國民性の本質を明かにせる正確なる國史を最も平易に讀み得る書である。學者政治家教育家神職を初め其他何人も是非一讀すべき書である。

發兌 東京市神田區表神保町七 大同館書店

小林博著 ●詳說東洋歷史 上卷 全 金四圓五拾錢 送料廿七錢

小林博著 ●詳說東洋歷史 下卷 全 金四圓五拾錢 送料廿七錢

佐藤種治著 ●參考 日本歷史精說 全 金五圓八拾錢 送料廿七錢

吉村重德著 ●落窪物語新釋 全 金貳圓八拾錢 送料十八錢

森山右一著 ●神皇正統記新釋 全 金貳圓五拾錢 送料十八錢

小林榮子著 ●伊勢物語活釋 全 正價金貳圓 送料十二錢

松本愛三著 ●勅題豫選歌集並詠進法 全 金壹圓六拾錢 送料十二錢

奈良島知堂著 ●少年乃木大將 全 正價金貳圓 送料十八錢

宮崎久松著 ●少年古事記物語 全 金壹圓八拾錢 送料十二錢

西臺來太郎著 ●受驗參考 中等東洋史詳解 全 正價金貳圓 送料十二錢

東京市神田 ■大同館發行■ 表神保町七

小學校に是非一本を備ふ可き良書

文部省檢定 試驗問題對照 大日本歷史

國學院大學講師 文學士 岡部精一氏 高橋與惣氏共著

▲教授用と檢定受驗用とを兼備せる隨一の國史參考書▼

拾貳版

●菊判クロース製最上美本 紙數九百五拾頁 全壹冊 金七圓五拾錢 郵稅十六錢

本書は各種學校の國史科教授の參考に供し兼て各種の受驗準備に資せんが爲めに編纂せるものにして教授參考に供する方法としては現行文部省の中等學校及小學校の教授細目を基礎とし之れを適宜配合して編章を分ち國史の本幹を形成せる事實を精細に通說し又古今史學家の發表せし新說の穩健なるものは努めて之れを採錄せり。試驗準備に資する方法としては第一回より第廿六回に至る文檢試驗問題を發題者の要求を推究探尋して一々精密に解釋し盡く各章末に添附せり。加ふるに編者多年の經驗と研究とを以て些の遺漏なきを期したれば諸學校に取りては繁簡適宜あらゆる重要史實を網羅して餘蘊なき最も完備せる國史參考書たるべく檢定受驗者殊に小學校教員諸氏に取りては教授用と受驗準備用とを兼備せる斯學隨一の羅針盤たるべし。

發行所 東京市神田區表神保町六番地 振替貯金口座東京八七貳番 大同館書店

栗原寅治郎著 ●地理教材有機的統合 全 金四圓五拾錢 送料十八錢

栗原寅治郎著 ●大日本國勢地理 全 金參圓八拾錢 送料十八錢

神田精輝著 ●地圖及略圖略法の理論と其取扱法 全 金五圓八拾錢 送料十八錢

新井順一郎著 ●現代基調高一の國史教授 全 金四圓五拾錢 送料十八錢

新井順一郎著 ●現代基調高二の國史教授 全 金四圓八拾錢 送料十八錢

吉波彦作著 ●精要韓非子詳解 全 金四圓八拾錢 送料十八錢

森山右一著 ●文檢受驗用史記選釋 全 金參圓五拾錢 送料十八錢

田井嘉藤次著 ●最近支那時文寶鑑 全 金貳圓五拾錢 送料十八錢

霜島勇氣男著 ●高等國文國語詳解 全 正價金參圓 送料十八錢

石田吉貞著 ●國文法の解義と練習 全 正價金貳圓 送料十二錢

東京市神田 ■大同館發行■ 表神保町七

◇石川誠氏新著◇

東京神田 大同館發行

五版

萬葉集古今集新古今集選釋

（和歌入門者の必讀書）

本書は古來歌人の金科玉條として紛式し來つた萬葉集・古今集・新古今集三部の中から雅馴流麗の數百首を拔萃して評釋を試みたものであつて主として文檢受驗者諸君・各種學校受驗者・學生諸君及び和歌初學者の便を計り懇切叮嚀に註解を施したものである。猶三歌集の詳密なる解題和歌史概要及三歌集參考書の解說を添へたものである。されば本書一卷で和歌史中の太古から現代に至る各時代の作例數百首を通觀し行る正に歷代和歌集を兼ねたものと云ふべき書なり。

四六判最上製本 全壹册五百餘頁 正價金參圓 送料十八錢

◇文學士小林好日氏新著◇（文檢受驗者必讀の要書）

新刊

新體國語法精說

菊判最上製本 全壹册四百頁 貳圓八拾錢 送料十八錢

本書は最も進歩したる科學的方法の下に試みられたわが現代語の研究書であり文語から口語に至る歷史的變遷を顧みられた比較對照法である音韻論品詞論から文章法論に至るまで懇切周到なる說明を施したもので國語の記述的文典であり理論的文典である。本書は又半面から見れば標準語の研究書であり標準語問題の理論的研究である。尋に心理的原理から嶄新なる說明を試みようとしてゐるが如きは頗る珍にして無味乾燥なる普通の語法書とその撰を異にしてゐる初等中等を問はず國語教授に携はるものの必ず座右に備ふべき參考書なり。

大關增次郎著 ●カント研究 全 金七圓八拾錢 送料三十六錢

野村隈畔著 ●ベルクソンと現代思潮 全 金貳圓五拾錢 送料十二錢

稻毛詛風著 ●改訂增補オイケンの哲學 全 金壹圓六拾錢 送料十二錢

稻毛詛風著 ●哲學教科書 全 金參圓八拾錢 送料十八錢

市川一郎譯 ●中等學校上級用哲學の一斑 基礎概念講義 全 金六圓八拾錢 送料二十七錢

市川一郎譯 ●高尚な理論を平易に講義せる 哲學概論 全 金四圓八拾錢 送料十八錢

永野芳夫著 ●デューイ教育學說の研究 全 正價金貳圓 送料十二錢

永野芳夫著 ●デューイ論理學の研究 全 正價金貳圓 送料十二錢

市川一郎著 ●教育の基礎たる哲學 全 金貳圓五拾錢 送料十二錢

市川一郎著 ●教育の基礎たる社會學 全 正價金貳圓 送料十二錢

東京市神田 ■ 大同館發行 ■ 表神保町七

◇佐賀高等學校教授 文學士 高木武著◇ 《好評激甚》

四版

受驗參考 新選漢文要義

本書は各種高等學校入學志望者小學校教員諸氏及一般學生諸君が自習の參考用書として漢文の眞髓を成可く迅速正確に會得せしむ可第一編文法要義には名詞、代名詞、動詞、形容詞、助動詞、副詞接續詞、感動詞、訓點の附け方等を解き第貳編には誤り易き似字を第三編には誤り易き同訓異字の辨第四編には誤り易き字音假名遣の辨第五編には誤り易き熟語を解き尙故事成語要義を添へ一々比較對照し記憶判別に便利なる樣特に意を注ぎて記述したり『萬朝報』本書を評して曰く親切に解きあれば學徒の利便尠からざる可しと必ずや各位が机上の便覽たるべし。

四美 六本 判最上製 壹圓八拾錢 送料十八錢

東京市神田 大同館發行

受驗者の一大福音

◇文檢研究會編纂◇ 《類書中の白眉》

本書の特色は

文部省檢定 中等教員 各科受驗者の手引

試驗委員の從來發表されたる談話は盡く蒐集して受驗者の注意しなければならぬ大綱を說いた。そして各科合格者の經驗談を多數集めて必讀參考書時間の利用法研究上受驗上の諸注意等苟も受驗者の心得なければならぬ事項を細大となく說示した等受驗者は何事を措いても先づ本書を熟讀玩味しなければならぬ。

四六判最上製 全壹册九百頁 參圓五拾錢 送料十八錢

IHA55

◇小林一郎氏新著◇ 《著者が敬仰の熱情遂に本書を成す》

四版

芭蕉翁の一生

四六判最上製美本
全壹册約六百頁

貳圓八拾錢
送料十八錢

其の生前に於ても死後に於ても芭蕉翁の如くに多くの崇拜者をもつて居る人は今古の詩人文士中に曾て例の無いことである此の如き人の一生は何人も之を研究して見て大なる教訓を得べきである著者は俳諧の專門家では無いが翁の作を愛誦すること既に三十年翁を識る上に於ては一種の自信をもつて居る隨て著者は此書を現代の各階級の人に薦めて其の批判を得ることを熱望して居るのである。

◇小林一郎氏新著◇ ―《芭蕉愛好者必讀書》―

新刊

芭蕉句集評釋

四六判最上美本
全壹册四百頁

貳圓八拾錢
送料十八錢

《趣味と修養》 古今の詩人文士の中で芭蕉翁ほど多くの崇拜者をもつて居る人はあるまい。翁は俳人として曾て居たのみならず其の人物が實に偉大であつた翁の作品に親しむことは何人にも必ず大なる力を與へる。翁の句集は何人も共に讀むべきものである。著者は全く素人であるから此の評釋は其道の人から見て種々の文句もあらう併し素人にして初めて捉へ得る所も多くあらうと思ふ既に翁を知つた人にも未だ知らぬ人にも是非必讀を希望する。

發兌 東京市神田表神保町七 大同館書店